

令和元（2019）年度

全学教育機構年報



令和2年12月

全学教育機構 点検評価委員会

まえがき

令和元年6月に文部科学省は第3期中期目標期間後半の取組の加速、第4期中期目標・中期計画の策定に向けて、国立大学改革方針を示した。その中で、知と人材の集積拠点としての役割、地方創生に貢献する役割を強調し、取り組むべき7つの方向性を示している。この背景には、急速なデジタル化、グローバル化、少子高齢化、そして、地方創生、地域分散型社会の形成への対応などの重要な課題がある。茨城大学では第3期中期目標の達成に向けた計画を6つの戦略的取組にまとめ、大学の柱として推進している。

ここでは先ず令和元年度における茨城大学全学教育機構の主要な3つの取組を、次に4部門の主な取組をそれぞれ紹介する。

本機構の3つの取組は、①数理・データサイエンス・AI教育の充実、②iOP（internship-Off-campus Program）の実施、③外部評価の実施についてである。①は国立大学改革方針の「高度で良質な人材育成」の数理・データサイエンス教育の全学部生への展開に関係する。本機構は数理・データサイエンス・AI教育を積極的に推進し、学部横断科目として「AI・データサイエンス入門」及び「AI・データサイエンス基礎演習」を開講し、数理情報教育の充実に貢献した。②はディプロマ・ポリシー（DP）主導の主体的能動的学修への転換を図る教育内容の改革として、学部3年次の第3クォーターに原則的に必修科目を開設せず、主体的な学修を促すiOPについてである。本年度が実施初年度で、取組学生数は、延べ719名、実人数で531名（在籍者の50.2%、工学部を除く）に達した。特に優れた取組にはiOP-AWARDとして表彰を行った。③は12月に実施した全学教育機構の外部評価についてである。本機構のミッションである「全学的な観点から教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価を総括的に行う」を中心にステークホルダーである学部の点検評価委員5名と茨城大学の共通教育に精通する学外委員2名が評価を行った。評価結果を纏めると、教育の質保証を全面に出し、総合教育企画部門、共通教育部門、学生支援部門、国際教育部門が連携して色々な取り組みを実施し、それらの機能を十分に果たしている。ただ、学内教員にその取り組みが十分周知されていないこと、また、質保証データを各学部と共有する観点から、全学共通FDの取り組みが弱いとの指摘があった。現在、全学FDの強化により、全学教育機構の取り組みを学内教員に周知する計画で進行している。

次に、令和元年度における総合教育企画部門、共通教育部門、学生支援部門、国際教育部門の4部門の主な取り組みを紹介する。総合教育企画部門では、平成28年度入学生から5つのDP*の達成度に関するアンケート調査を実施している。そして、令和元年度において4年目を迎えることから1年次から4年次までの学年進行でのDP達成度の推移を定量的に把握することが可能になった。その結果、5つのDP全てにおいて、学年進行とともに肯定的な回答割合が増加しており、中期目標で定めるDPを備えた人材養成の成果が表れていることを示すことができた。共通教育部門では、DPに基づく共通教育（基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育）の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。共通部門には13の部会と、共通教育全般に関する窓口の共通教育センターとがある。本年報では13の部会活動を紹介している。今年度は、来年度から全学部で実施されるPC必携化（BYOD）に向けて、新たに情報リテラシー相談室を開設した。また、キャリアセンターと共同して、3年次での必修科目「ライフデザイン」を新たに開講した。これにより、身近な社会を知る1年次の「茨城学（必修）」、1年次、2年次を対象とした「仕事を考える（選

扱)、「インターンシップ実習(1単位・選択)」、日立キャンパス開講の「キャリアデザイン論(1単位・選択)」と合わせ、大学での学びを活かし、キャリアを考えるための授業をキャリア教育体系に位置付けた。学生支援部門では、学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。学生支援部門には、学生支援の窓口として学生支援センターとキャリアセンターの2センターと茨大なんでも相談室とバリアフリー推進室の2室がある。特に、バリアフリー推進室が全学教育機構下に入り本格始動してから、3キャンパスでの相談体制が充実し、相談件数が格段に伸びた。また、アクセシビリティリーダーの養成にも積極的に取り組み、今年度はアクセシビリティリーダー認定試験合格者1級2名、2級9名を輩出した。キャリアセンターでは、就職ガイダンス(参加者:水戸キャンパス 延べ1,673名、日立キャンパス 延べ1,968名、阿見キャンパス 延べ1033名)を実施した。しかし、合同企業説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。他に、国家・地方行政団体業務説明会、インターンシップマッチングフェア等の就職支援活動を実施した。国際教育部門では、留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。国際教育部門には、グローバル教育を推進する窓口としてグローバル教育センターがある。新規協定校の開拓として、コメニウス大学人文学部(スロバキア)との部局間学生交流協定があり、本学全学教育機構および人文社会科学部との間で交流協定が締結された。6カ国(スペイン、ブルネイ、韓国、マレーシア、米国(サンフランシスコ)、オーストラリア)の短期海外研修の企画および実施、さらに2大学(ベトナム・ハイフォン大学、ウィスコンシン州立大学スペリオル校)の協定校との授業交流を実施した。

本年報では上述の主な活動以外に令和元年度の部門活動の特色ある業務を多く記載している。これと本機構の委員会活動、教員の活動の経過と記録が要約されている。このように本機構が発足以来、順調な歩みを続けることができたのは、太田学長、三村前学長、木村初代全学教育機構長をはじめ、これまでに本機構に関与された多くの方々の献身的なご尽力やご協力によるところが大きい。関係各位に厚く御礼申しあげる。最後に、本年報がこれからも、全学的な観点からの教育・学生支援に関心をお持ちの多くの方々によって広く利用されることを切に願うものである。

令和2年10月30日

全学教育機構長 栗原 和美

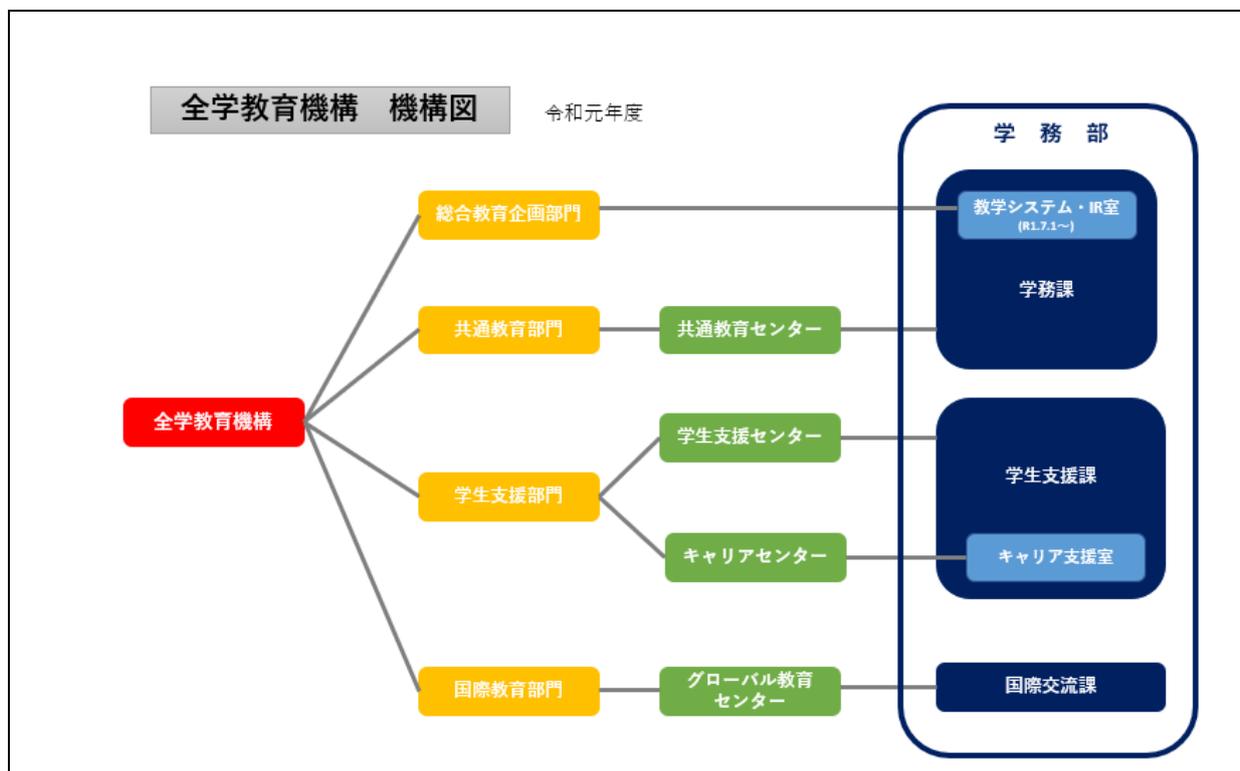
* https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/college_dp/index.html

<もくじ>

まえがき	2
① 部門の活動〔定例業務〕	5
② 部門の活動〔令和元年度の活動・特色ある業務〕	11
③ 令和元年度における教員の活動	53
④ 機構内各種委員会委員	108
⑤ 別紙資料リスト	109

① 部門の活動 [定例業務]

全学教育機構では、本学のディプロマ・ポリシーに則した人材を育成するため、全学的な観点から、教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等を総括的に行います。継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括、共通教育や学生支援の企画・運営、グローバル教育の推進などを担うため、4部門4センターを置いています。



略年表

大正 9 年（1920 年）4 月：旧制水戸高等学校開学。

昭和 24 年（1949 年）5 月：茨城大学開学。文理学部を設置。

昭和 37 年（1962 年）4 月：学生相談室（学生相談センターの前身）が発足。

昭和 42 年（1967 年）6 月：文理学部を改組し、人文学部、理学部の 2 学部及び教養部（共通教育部門の前身のセンターの元となる）が発足。

平成 8 年（1996 年）4 月：大学教育研究開発センター設置。（同年 3 月をもって教養部を廃止）

平成 13 年（2001 年）4 月：国際教育部門の前身となる留学生センターおよび学生支援部門の前身となる学生相談センター設置。

平成 14 年（2002 年）4 月：学生支援部門の前身となる学生就職支援センター設置。

平成 17 年（2005 年）3 月：評価室（現在の大学戦略・IR 室）を設置。

平成 18 年（2006 年）4 月：大学教育研究開発センターを大学教育センターに改組。

平成 29 年（2017 年）4 月：大学教育センター、留学生センター、学生相談センター、学生就職支援センターに、大学戦略・IR 室の一部機能も移行した上で全学教育機構に再編成。

○ 総合教育企画部門

関係部署との連携による、共通教育と専門教育間の連携・調整、教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンロールメント・マネジメントに関する基本方針の策定、企画及び運営を行なっている。

第1四半期（4月～6月） ・新入生調査 ・学生生活実態調査、2年生調査 ・授業アンケートとりまとめ（前年後期分）	第2四半期（7月～9月）
第3四半期（10月～12月） ・授業アンケートとりまとめ（前期分）	第4四半期（1月～3月） ・卒後3年目調査 ・企業向け学修成果調査（隔年） ・卒業時・修了時調査
通年（随時）実施事項 ・学部アドバイザーボードへの情報提供 ・学部、学科のFDミーティングへの情報提供 ・FD/SDの企画、運営	

○ 共通教育部門

ディプロマ・ポリシーに基づく共通教育(基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。

第1四半期（4月～6月） 4月：基盤教育科目クラス編成 4月：前学期セメスター及び第1クォーター授業開始 4月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 6月：第1クォーター学生授業アンケート実施 6月：第1クォーター成績入力 6月：第2クォーター授業開始 6月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートおよび教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別FDの実施	第2四半期（7月～9月） 7月：前学期セメスター及び第2クォーター学生授業アンケート実施 8月：前学期セメスター及び第2クォーター成績入力 8月・9月：夏季集中講義 9月：夏季集中講義成績入力
第3四半期（9月～12月） 9月：後学期セメスター及び第3クォーター授業開始 10月：前学期セメスター及び第1・第2クォーター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 11月：第3クォーター学生授業アンケート実施 12月：第3クォーター成績入力 12月：第4クォーター授業開始	第4四半期（1月～3月） 1月：後学期セメスター及び第4クォーター学生授業アンケート実施 2月：後学期セメスター及び第4クォーター成績入力

1 2月：前学期セメスター及び第1・第2クォーター学生授業アンケート並びに教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別FDの実施 1 2月：次年度基盤教育科目シラバス入力 1月：シラバスの点検・確認	3月：春季集中講義 3月：春季集中講義成績入力
--	----------------------------

[共通教育センター]

1年次からの基盤教育及び全学共通プログラムの履修手続きなど、共通教育全般に関する窓口である（旧 大学教育センターなど）。

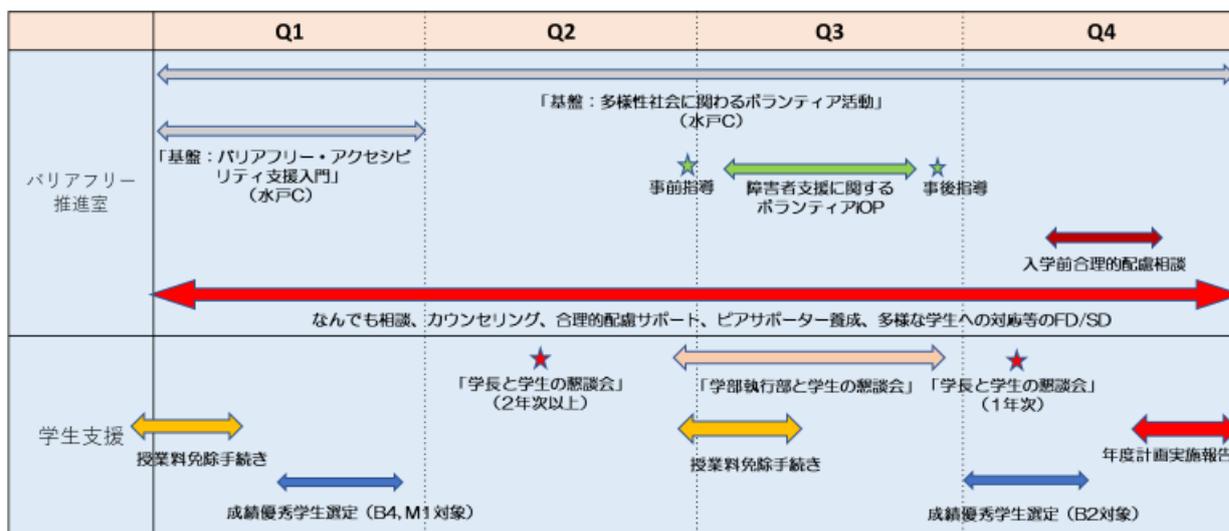
○ 学生支援部門

学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。2つのセンターと2つの室を持っている。

[学生支援センター]

学生生活全般について取り扱い、学生の成長を促す学生支援を行う。奨学金や授業料免除の申請、学生寮、サークル活動などの窓口である。茨大なんでも相談室およびバリアフリー推進室があり、それぞれ学生相談および障害のある学生向けの支援を行っている。

主な学生支援業務（バリアフリー推進室含む）

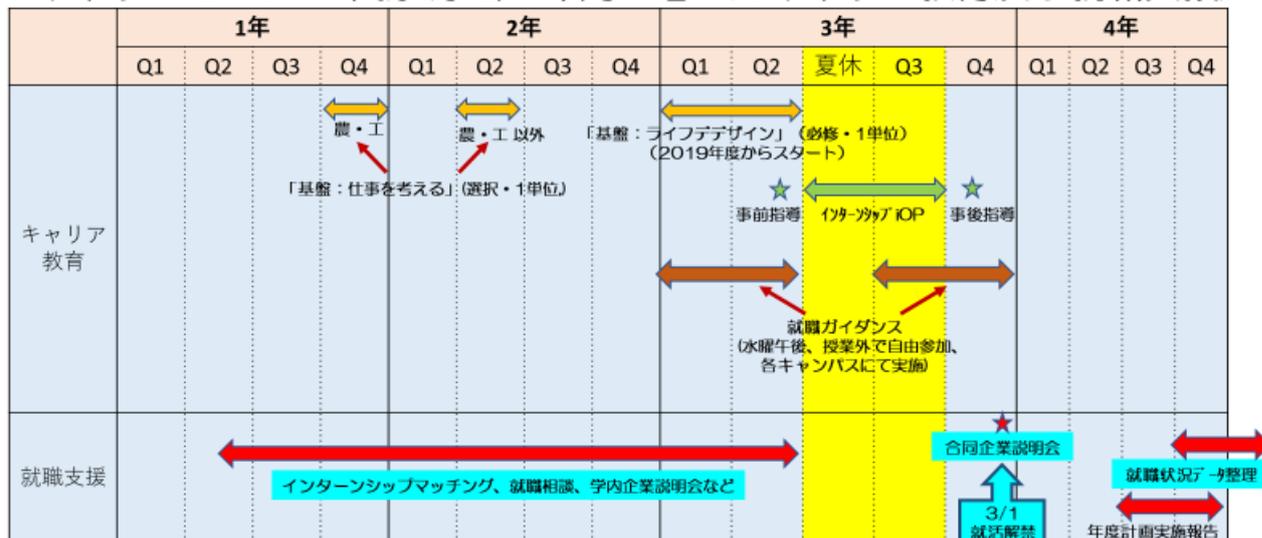


※ 上記のほか、入学式、オープンキャンパスでの説明、事件事故の対応などの業務がある。

[キャリアセンター]

就職支援や、インターンシップをはじめとする将来を見据えた幅広いキャリア支援を行う。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口となっている。

キャリアセンター業務 (学部4年間に沿ったキャリア教育及び就職支援)



※ 上記のほか、オープンキャンパス、助成会などでの保護者説明や大学広報など、就職状況の資料提供を行っている。
 ※ 3キャンパス間の支援格差の軽減に向けて、3キャンパスをVCSでつなぎ就職支援キャリア教育推進部会を行っている。
 ※ COC+の計画遂行をサポートするために、週1回水戸キャリアセンターとCOC+の定例会議を行っている。

○ 国際教育部門

留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。

[グローバル教育センター]

海外留学や研修、英語コミュニケーション力の強化など、グローバル教育を推進。留学や国際交流の相談のほか、外国人留学生の日本語教育や修学支援、国際交流会館などの窓口となっている。

月	活動記録
4月	交換留学生オリエンテーション (3日間) 交換留学継続生のためのガイダンス 外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス
5月	海外留学説明会 海外ボランティア・TOEFL 説明会 海外留学 Week 日本語研修コース レベル3プレゼンテーション 日本語研修コース日本体験学習 (農学実習)
6月	水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流

	<p>「5 学部混合地域 PBL IV」中間報告会 留学生の茶道・華道体験 Japanese Pop Culture A ポスター発表会</p>
7 月	<p>国際交流合宿研修 派遣留学生のための留学前ガイダンス 交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） オープンキャンパス「国際交流留学案内」 留学報告会</p>
8 月	<p>「5 学部混合地域 PBL IV」最終報告会 公開講座「茨城大学で学ぶ留学生と考える『日本』（日本語研修コースレベル 4（総合）のプロジェクト成果発表会） 日本語研修コース レベル 3 総合最終発表会 Japanese Pop Culture B 発表会 県内高校生向け公開講座</p>
9 月	<p>日本語研修コースのオリエンテーション 阿見キャンパス新入留学生向けの集中日本語初級コースの開講 公開講座『外国人に日本語を教えてみよう！』開始（全 11 回 9 月～12 月）</p>
10 月	<p>ブリッジプログラム オープニングセレモニー・オリエンテーション 阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業） 阿見キャンパス日本語チャット（全 10 回 10 月～12 月） 交換留学説明会・報告会 国際社会青年育成育成事業 青年団との交流 留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 日本体験学習：農学実習 ベトナム・ハイフォン大学の学生との授業交流 海外ボランティア・TOEFL 説明会 タンデム学習プロジェクト（10 月～2 月）</p>
11 月	<p>タンデム学習プロジェクト 情報交換会 日本体験学習：茶道・華道体験(11 月 26 日) ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流 IOP チュートリアル調査結果発表会 レベル 4 総合 プレゼンテーション Studies in Particular Field 発表会</p>
12 月	<p>第 15 回茨城学生国際会議 阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業） ベトナムの日本語教育を知るインターンシップ</p>
1 月	<p>阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業）</p>

① 部門の活動 [定例業務]

	<p>桜ノ牧高校訪問・文化紹介・文化交流</p> <p>Studies in Contemporary Japan ポスター発表会</p> <p>交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期）</p> <p>チューター募集説明会</p> <p>SD 研修「留学生向け窓口対応のための『やさしい日本語』を考えるワークショップ」</p> <p>日本語教育プログラムガイダンス</p>
2月	<p>海外留学危機管理セミナー</p> <p>インドネシア・ジョグジャカルタにて留学生同窓会</p>

② 部門の活動 [令和元年度の活動・特色ある業務]

全学教育機構では、それぞれの部門において、大学の中期目標・計画などに従い、特色ある活動を行っています。令和元年度の特色ある活動は以下のとおりです。

○総合教育企画部門

4階層の内部質保証システムを着実に運用し、学習支援と卒業時の質保証を推進した。さらに、これまで蓄積してきた学生情報のデータベース化(iEMDB)を進め、学修成果の可視化を行った。また、各学科・コース等での点検評価（モニタリング）とアドバイザーボードによる外部評価を継続して実施し、教育内容の改善につなげた。これまでの成果をシンポジウムで発信、合同公開FD研修会の開催、学外向け冊子「茨城大学コミットメントがみえる」の作成等、啓発活動や広報活動に努めた。

その結果、FDの実施などにより、これまで進めてきた4階層の内部質保証システムが学内で着実に浸透し、学習支援と卒業時の質保証のサイクルが定着した。さらに、学生情報のデータベース化(iEMDB)により、学内で実施している各種データを一元的に管理し、ほぼリアルタイムで情報の抽出・分析が可能となったことにより、分析結果の検討を効率的に行うことができるようになり、教育の質向上につなげることができた。

また、各学科・コース等での点検評価により、日常の授業やカリキュラム上の課題を改善するとともに、アドバイザーボードにより社会や地域のニーズを反映した教育改善を定期的に行うサイクルが構築され、継続している。

AP事業最終年度であることを鑑み、これまでの成果を啓発活動や広報活動により発信することに努めたことにより、学内外における教育改善や質保証に対する理解度の向上に資することができた。

実施計画	結果と成果（全学の動き）
<p>(4月)「コミットメントセレモニー」などの自校教育企画を開催し、「学修の手引き」などによる初年次教育を施す。</p>	<p>4月の入学式において、「コミットメントセレモニー」を実施し、副学長が新生生に対しディプロマ・ポリシー（以下、「DP」という。）を説明し、上級生が実践事例を報告した。「学修の手引き」を用いて、「大学入門ゼミ」という1年生必修科目で、主体的に「学ぶ」姿勢について、担当教員から指導した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>学生にDPを理解させ、本学で何が学べ、何が身につくのか具体的にイメージを持たせた。これにより、学生は今後4年間で何をどのように学びたいのかという行動指針（学びのデザイン）を初日から考えることができた。さらに「学修の手引き」を用いた授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢への転換を図り、各学生へDP達成への意識づけを行うことができた。</p>

	<p>これらにより、主体的な学修動機・学修行動を促し、学修成果の向上を図った。</p>
<p>(5月～) WEB 調査による省力化を進め、共通化した各種アンケートを体系的に実施し、検証を行う。</p>	<p>授業アンケートをはじめとする入口から出口までの6種類の学生調査を体系化し、設問を共通化した上でweb調査として一元化した。実施方法の検証を行った結果、学生の負担軽減の必要性が指摘され、内容の重複の解消を進めることとした。また、4年間継続して聞く内容については、前回の結果が参照できるように改善することとした。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>web調査として一元化したことで、これまで集計に数ヶ月を要する場合があったが、原則的にしめきり翌日に公表できるようになった。また、担当者の省力化が図られたため分析業務などに注力できるようになった。授業科目の理解度、満足度、学修時間、アクティブ・ラーニングの実施度合いなどの各種データを一元的に管理・集計・分析することが可能となった。また、自由記述欄の記載内容が大幅に増加し(1～2%→約40%)、より詳細なアンケート結果の分析が可能となったことで、調査結果を授業改善につなげる仕組みが整った。また、学生調査結果を配布、掲示したことで、「意見を言えば、大学が変わる」という実感を学生が持ち、主体性を持った教育改善、教育改革への参画を促すことができた。</p>
<p>(5月～) アンケート等調査結果など、エンrollment・マネジメントに関する情報を各学科・コース等に配信し、全学、各学部及び各教育プログラムにてFD・SDを開催する。また、他大学の取組について調査を行う。</p>	<p>茨城大学FD/SD支援システムを開発し、入口から出口までの学生情報(エンrollment・マネジメント)に関する調査結果の公表を行っている。加えて、授業アンケート、成績分布については、教育プログラム(学科)別に公表し、教員は学科等のFDの際にそれらを共有することができるようになっている。学部FDについては、全学部でこれらのデータを用いて学修成果の状況を各教員と共有した。他大学の取組については、AP採択校の主催するセミナー等に参加し、積極的に収集を行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>特に授業アンケートの結果や成績分布を教育プログラム(カリキュラム)内で相互点検している。授業のレベルや内容の設定が適切なのか、課題があればどのように改善をすればよいのか、などについて教育プログラム(カリキュラム)を担当する教員同士で自律的に検討することで、学生の動向に合わせた機動的できめ細かな改善を進めることができるようになった。</p>
<p>(8月・2月) 教職員を対象に、身近な題材をもとにしながら</p>	<p>4月には、新任教職員オリエンテーションの中でFD/SD研修会を実施し、本学の内部質保証体制や学修生活状況を素材に、講義とワークを行った。7月には教育学部と理学部で初年時教育の学修状況、9月には入試業務関係者向けに地域別の学修成果の状況、10月にDPや</p>

<p>FD/SD 研修会を実施する。</p>	<p>CP を踏まえた授業改善をテーマに全学 FD/SD 研修会を実施した。11月に農学部、12月に工学部、1月に理学部および教育学部、3月に人文社会科学部において DP の達成度と学生の学修行動や内部質保証のために各教員に実施いただくことに関する FD 研修会を実施した。12月にはシラバス改善による教育システム改善を行うための全学 FD、1月には共通教育における学部間の学力差等の FD 研修会を実施した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>本学では、FD を日常的な教育改善の取組としてとらえ、各学科等で自律的に実施している。このように現場の教員が定期的に顔を合わせ、教育の質、学修成果、カリキュラムについて議論することを継続的な活動として定着することができた。このことにより、学生の学修状況等をカリキュラム改善などに迅速に反映できる体制となった。</p>
<p>(9月) iOP の学外活動等を展開する。</p>	<p>中長期学外学修プログラムである iOP (internship Off-campus Program) を本格実施した。</p> <p>531名の学生が iOP プログラムに挑戦し、実践した。大学が設定した十分な取り組みについては認定証を発行し、優れた取り組みについては、iOP-Award という公開プレゼン (ポスター、口頭) を通して顕彰を行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>iOP 期間である3年次第3クォーター以外は、キャンパスを中心に学修時間を十分に確保してもらい、iOP 期間には、逆にキャンパスにとらわれることなく自由な学びを進めてもらっている。124単位の中では、なかなか実現できない海外渡航や長期のインターンシップにより、学生はなりたい将来像に対して、もっと伸ばしたい、まだ十分ではない部分を学内外で学ぶことが可能となった。</p>
<p>(9月・3月) 普及活動として、IR・質保証・アセスメントセミナーや、公開型 FD、勉強会を開催する。</p>	<p>2月6日に東日本国際大学と合同で、AP 事業成果に基づく合同公開 FD 研修会「教育の質保証のための実践事例セミナー」を東京都内で開催した。2大学の AP 事業の成果を実践的な教育改善メソッド+実践事例として紹介し、演習を通して展開を図った。参加者は30名で、アンケートは24件回収で満足度は100%であった。反省点としては、申し込み受付開始から2日程度で満席となってしまう、各大学の期待に応えられなかった。このことから、AP 事業終了後についても普及活動を実施していきたいと考える。</p> <p>また、明星大学、愛媛大学、東北大学、名古屋大学、大阪市立大学、筑波技術大学に依頼され、本学の AP 事業の成果 (卒業時の質保証体制) の報告を行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

	<p>本学からは、卒業時の質保証のための学修成果などの指標策定の具体的手法、内部質保証体制構築のための具体的なチェックリストを提供、解説した。参加者からは、「すぐに使ってみたい」「具体的で役に立った」という意見も多く、これらをもとに各大学における内部質保証体制構築とモニタリング体制が向上することで、我が国全体の学生の学修成果向上に寄与できると考えられる。東日本国際大学の報告した ICE モデルにもとづくシラバス改善手法は、本学においてもシラバスガイドの改善に活用している。</p>
<p>(10月) 学生情報のデータベース化 (iEMDB) を進め、関係教職員の学修支援への運用に備える。</p>	<p>iEMDB と呼称する Excel シートを作成し、3年分の学生情報 [成績、単位数、TOEIC スコア、部活等] を収集した。すでに各学部等からのデータリクエスト対応に活用し始めている。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>iEMDB により、学内で行っている各種調査結果や学生の活動に伴い生成する各種データを一元的に整理し、蓄積した。これにより、従来、異なる調査結果のデータをクロス集計するためには、複数の調査結果から関連するデータを抽出し紐付ける処理が必要であったが、iEMDB により、ほぼリアルタイムで情報の抽出・分析が可能となった。データ分析に係る時間の大幅な短縮により、教員らは学生の状況を把握した上での対応内容の検討に時間を割くことが可能となり、教育の質の向上につながっている。</p>
<p>(10月) ポータルシステムにより学期及び通算 GPA の相対グラフを提示し、主体的な振り返りを促す。</p>	<p>1年生から4年生までの半期ごとの GPA を6段階に色分けし、学生に学期および通算の GPA を示すことで、今後の学習計画の参考にし、主体的な振り返りを促した。学部等での相対的な位置を示すことで、取得単位数だけでなく、学びの質をどのように上げていかなければならないか、自らの気づきを促した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>1年生から4年生までの半期ごとの GPA を6段階に色分けし、各学部や学科等に入試区分別に提供したり、就職先や DP 達成度との関係などを示したりしている。教員らは、自らの教育プログラムにおいて、どのような成績の学生がどのように学びを進めているのかについて情報を共有している。学生の指導の際には、学生は自らの相対位置、教員は全体の分布だけでなく、その推移を踏まえた将来予測も考慮に入れた相談等が可能となった。</p>
<p>(10月) 各種アンケート結果による DP 達成度を提示し、自らの振り返りを促す。</p>	<p>「茨城大学コミットメントがみえる」と題した小冊子を作成し、各 DP について、①各年度の卒業生がどのような達成度になっているのか、②ある学生が各学年度でどのような達成度になっているのか、③卒業時の達成度は3年後どの程度使える力になっているのかを提供した。</p>

	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>学生は、自らの DP の達成状況が、学年相応なのか、上回ったり下回ったりしているのかを知ることで、今後、どの部分に力を入れていかなければならないか、などの主体的な学修計画を立てやすくなった。また、卒業生や就職先の評価が高いことを知り、卒業後の具体的な姿を想像して意欲的に勉学に励むようになった。</p>
<p>(12月) 学修成果について卒業生や就職先から意見聴取し、社会のニーズを把握する。</p> <p>(1月) 学生に対する卒後調査(間接測定)と企業等関係者の学修成果調査(直接測定)を平行して実施し、学修成果を多面的に把握する。</p>	<p>1月に卒業後3年目の卒業生に対し、DPごとに本学での学修成果が実際に社会で役に立っているかどうか調査(郵送法)を行った。また2月には、水戸市内の全小学校長、全中学校長に対して本学のDPで示した学修成果を実際に得ていたのかどうかについて調査を行った(企業等には前年度実施)。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>学生の成長実感と社会からの評価の共通点、相違点を把握することで、学生の学修成果をより多面的かつ客観性を持って把握することができ、本学の教育の強み及び課題を可視化し、これを踏まえた教育内容・教育方法の改善につなげることができた。各授業はどのDPに結びついているのか明示しているため、調査結果は各教員にとって授業の改善材料となり、学生にとってはより社会通用性の高い授業内容になることが期待できる。</p>
<p>(12月) 各科目達成基準の段階評価についてシラバスへの記載を検討し、次年度シラバスにて試行の準備をする。</p>	<p>学修成果測定の一環でルーブリックによるパフォーマンス評価を卒業研究において実施し、一部の科目においてもルーブリック化を進めている。また、全科目のシラバスにおいて、本学の成績評価基準を踏まえた評価基準を記述した。さらに、教育プログラム内で他の教員のシラバスの相互チェック及び成績分布の相互点検を実施する制度を導入した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>全教員が本学の成績評価基準を再認識するとともに、相互チェックを行うことで、教育目標や内容、手法は異なるものの、教育プログラム内で粒度の揃った成績評価が可能となり、GPAの精度が向上した。</p>
<p>(1月) 茨城大学における教育の内部質保証システムに関する指針を確定する。</p>	<p>3月中の審議、全学決定を予定していたが、学生の新型コロナウイルスによる感染を防止しつつ、最大限の学修成果を得てもらう為の学事暦の変更、学生相談体制の再構築、遠隔授業の実施体制構築に注力したため、指針の審議は新年度に行うこととなった。案は策定済みで、全学の教学マネジメントを司る会議体(教育改革推進委員会)において基本的な合意は得ている。なお、4月からの学長交代にともなう新執行部の運営体制については、内部質保証システムに関する指針案を踏まえた体制とした。</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

	<p>本学の内部質保証体制は、三つのポリシーをもとに学生の学びを最大化するためには、どのように学修成果を測り、それを活用するのかに力点を置いたもので、1月22日に中央教育審議会大学分科会において取りまとめられた教学マネジメント指針にもほぼ対応しているものとする。</p> <p>これは、単に教員が教えればよい、というところから、学生が何を学んだのか、という視点にシフトするだけでなく、それを組織としてどのようにマネージするか、という視点に移行したことを意味し、学びの質を各階層の全ての構成員が考えて行くための意思決定と情報流通の仕組みを整備したものである。</p>
<p>(2月) 各教育プログラムにおいて各種調査データを検証し、DPを踏まえた教育の体系性を検証するとともに、アドバイザリーボードによる外部評価を実施する。</p>	<p>全ての学部において、DP達成度やFDの実施状況を検証し、地域の方を中心とした学外有識者からなるアドバイザリーボードによる外部評価を実施した。学修成果の状況や教育システムについて重点的に意見をいただいた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>学外の有識者（地元の自治体、地元企業、地元高校校長、海外の大学教員、農業高校連合会会長、卒業生、他大学執行部等）による適切な助言により、各学部は、それぞれの教育改善の取組について、適切性と有効性が十分なものか確認し、社会のニーズを体感することができた。全ての学部で、毎年学外者（アドバイザリーボード）に学部の主要な活動を評価してもらうことがほぼ定着した。地域の有識者に代表になってもらい社会のニーズや意見を随時いただき、それを教育に反映することで、より社会で役立つ教育を受けることができるようになったと考えられる。特に卒業時の質を保証する卒業研究ルーブリックの点検をしていただくことによって、地域の方々とともに卒業生の質を測る「ものさし」を点検することができた。</p>
<p>(3月) 各学部、学科・コース等（カリキュラム）版卒業研究ルーブリックを運用し、点検する。</p>	<p>全ての学部において、卒業時の質保証のために卒業研究のルーブリックを策定し、運用を開始した。点検が未実施の学部においては、アドバイザリーボードにおいて点検を行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ルーブリックを策定する過程で、4年間でどのような学びがあれば卒業できるのかというDPをどこまで実践すればよいかについて理解が深まった。また、その学修成果のために、どのようなカリキュラム、授業内容、水準が求められるのかについても理解が深まった。ルーブリックとして目指す学修成果が明示的になることで、学生も何をすればよいかを明確に理解可能になった。また教員も、卒業研究において、折に触れどの要素がどの程度の状況なのかを学生に可視化して</p>

	<p>示すことで「次に何をすればよいのか」の指針を示すことが可能になった。</p>
<p>(3月)学修成果に関する数値情報等を集約・統合し、人材育成 Annual Report (学修成果ファクトブック)として発行し、社会へ公表する。</p>	<p>これまで様々に異なる調査によって把握していた学修成果に関する数値情報等を集約・統合し、人材育成 Annual Report (学修成果ファクトブック)については、FD/SD 支援システムとして電子版を運用している(学内限定)。学外のみなさまへの公表用としては、冊子版の「茨城大学コミットメントがみえる」を作成し、学修成果に関する主要データについて収録し、学生、教職員だけでなくアドバイザーボードなどの学外者にも配布するとともに、本学 HP にて公表した。また、人文社会科学部においては、後援会(保証人で構成される)で、学生調査結果などを報告した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>前述の通り、学生にとっては学修成果が定数的に可視化され、今後、どのように何をがんばればよいのかを考える際の指針となるデータを提供することができるようになった。</p>

○共通教育部門

(1) 初年次教育部会

本部会は、新入生必修科目である大学入門ゼミ、茨城学、情報処理の科目群を担当する。大学入門ゼミは、共通テキストをベースに各部局・学科独自のコンテンツを加え、それぞれの担当で運営されている。年1度のFDによって全体的な問題点等を確認している。茨城学は地域志向教育の入門科目と位置付けられるもので、本年度からいわゆる内部化によりスタッフ数やTAの人数を削減しての実施となった。その制約にもかかわらず、パフォーマンスを落とさずコンテンツを提供できた。詳しくは地域志向教育部会の報告を参照されたい。情報処理の科目群については以下のとおりである。

○部門の活動（特色ある業務）

- ・情報リテラシー相談室の開設

PC必携化（BYOD）が本年度（令和元年度）からいくつかの学部で実施されており、来年度からは全学部で実施される。本部門では、学生がトラブルなくPCを授業で利用できるように、今期から「情報リテラシー相談室」を設けている。まずは前期開始からの2週間に集中してお昼休みと夕方の時間帯に実施した。ここでの相談室業務には、部門教員（佐藤、山本）、機構構成員（鳶田）、IT基盤センター教員（大瀧、野口）、3年生の学生相談員4名にて対応した。その後は相談内容を授業内容へと変更し、前期の月・火曜日のお昼休みに、教員（佐藤）とTA（各曜日3名ずつ）で相談室を開設している。

- ・FDの実施

令和元年12月3日に情報リテラシーFDを実施し、23名が参加した（科目担当教員21名、および、部会長、機構長）。まず、令和2年度（およびそれ以降）の情報リテラシー科目の教育内容について意見交換を行い、続いて、提案されているシラバスの改定案についての議論を行った。また、今後の情報リテラシーとAI・データサイエンス教育との関りについて活発な意見交換を行った。

(2) プラクティカル・イングリッシュ部会

○部門の活動（特色ある業務）

- ・異なった特色のFDの実施

年間の計画として、非常勤教員を含めた全体のFDを年に2回、部会員を対象としたFDを年1回実施し、教育効果の向上を図っている。全体FDは年度当初第1回として実施し、特に新規採用の常勤講師には、プログラム全体の理解、科目担当者との連絡および意見交換等の機会を提供する上で、大きな役割を果たしている。また、年度末には第2回として、次年度に向けて、プログラム全体を再確認することと、年度の授業を振り返っての様々な意見交換を行う機会を科目ごとに提供し、プログラムの理解を深めることに加え、カリキュラム改善に資することを目的として企画しているが、今年度に関しては、コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、中止の措置を取った。2度の全体FDを行う間に部会員対象のFDを行っている。実施の方法としては、非常勤講師を含めた授業担当者へのアンケート結果に基づき、

それぞれの科目における課題を明確にし、カリキュラム改善を図り、そこからプログラム全体の質的向上を図ることを意図している。今年度については、特に自律学習支援に関わる課題について深く考察する機会を得ることができた。

- **英語の会話力を向上させるための機会の提供**

学生が個別に予約し、英語の聞く力および話す力を特に伸ばすことを可能にする機会を複数の担当者を設定し、提供した。複数の担当が存在することにより、学生は個々の都合に合わせて、予約をすることができ、それによって、より多くの学生に機会を提供することが可能となっている。

- **個別に学習相談を行う機会の提供**

PE 部会のコーディネーターが中心となり、事前に予約の上、英語学習に関して様々な相談を個別に行う機会を提供した。このような機会により、学生の英語学習に関しての様々な悩みの解決を支援し、より効果的な学習方法を体得させ、自律的な学習者の育成につなげていくことが可能となっている。

○ 関連イベントの報告

- **教育改革推進経費事業による自律学習支援**

昨年度に続き、自律的な学習者の育成を図る試みとして、学生の動機づけに資するための「英語学習へのモチベーションセミナー」を企画し実施した。実施に先立って、学生 4 月初旬に「スタートアップセミナー」を実施して学生関心の高さを確認し、その後、企画を行い、教育改革推進経費による事業として、実施することが可能となった。テーマを毎回変えて、学生を含む多様な講師陣を招き、合計 4 回実施することができた。参加する学生の総数には今後に向けての課題も感じられるものの、参加した学生からの評価は総じて高く、学年を問わず志を持った学生により一層学習に取り組むきっかけを与えることができたのではないかと考察する。

- **ニューズレターによる自律学習支援**

英語学習についての適切な情報提供、学習意欲の喚起を目的として、ニューズレターの発行を行った。ポータルでの告知に加えて、各授業においても認知度を向上させる依頼を行った。この試みは令和 2 年度においても継続し、量・質ともに一側の充実を目指している。前年度に続く上記 2 つの自律学習支援の試みは、授業以外の時間の学生の自律的な学習こそ日本における学習の成否を決定づけるという言語学習観に基づくものである。

(3) 心と体の健康部会

体力測定および生活習慣への意識改革に関する取り組み

(前期受講者 4/17・4/19・4/22；約 800 名)、後期受講者 10/4・10/7・10/9；約 800 名)

2019 年度入学生を対象に、文部科学省が提示する「体力運動能力テスト」を基本として、「長

座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「上体起こし」の4種目を実施した。受講生には、その結果を元にレポートを課している。これにより、自分の生活習慣を振り返る契機となり、その後の授業での学びにつながる参加意欲と、自分の生活習慣への意識を高めていった。

授業改善に関するF Dの実施 (2019. 8. 7 心と体の健康部会構成員 6名)

R1 (2019) 年度前期の受講生アンケートを踏まえて、授業改善F Dを行った。

受講者アンケートからは、「心と体の健康」の授業を通して、自分の「健康」の維持や向上を図ることの意味や価値を見出している姿が伺えた。また、受講者同士のやりとりの中で「コミュニケーション能力」の向上、授業時間内のアクティブラーニングによって「課題解決能力」の向上を実感している受講者の姿が見られた。しかし、前年度の課題にあった「授業時間外学修の確保」が課題となった。どの様に実技として予習時間と復習時間を確保するか。具体策は見出せなかったが、アンケートの数値には現れない受講者の取り組みは、レポートや生活習慣記録表から実感できている。

合理的配慮が必要な学生への対応

(2019. 11. 25 心と体の健康部会構成員、非常勤講師、学務課担当者等 17名)

加藤敏弘先生から「合理的配慮が必要な学生への対応」と題して話題提供していただいた。心と体の健康の位置付けの説明から、合理的配慮が必要な学生のクラスで実践している「加算方式の評価方法」や配慮の仕方について、活気ある話し合いが行われた。

現在、合理的配慮が必要な学生のクラスは、イレギュラーな形で存在している。現在のところ、新入生の状況（配慮が必要な学生が何人いるか）は、入学前、もしくはガイダンス前に本人の申告に頼るしかない。毎年一定数いるわけではなく、固定してクラスを設けることができない。その為、ガイダンスから授業が始まるまでの数日間で、クラス設置の可否、実施教室の検討を行う必要がある。このクラスでの受講を希望する学生から求められるニーズは多種多様であり、毎年変わり続けている。医療に関する知識や理解がなければ担当することはできない者も少なくない。これに即座に応えつつ、身体活動としての学びも提供する。この条件を受け止める技量があるのが加藤先生であり、誰にでも担当できる授業ではない。しかし、このままでは教員一人に負担が集中してしまう。それを軽減させる為、今回のF Dを実施した。また、現段階の課題として、授業が進行してから分かる合理的配慮が必要な学生への対応についても話し合った。受講者の様子から配慮が必要だと気づいた時点で、どの様な順序で、どこに相談をすれば良いか分からない、という事例が挙げられた。今後、フローチャートを作成することで、対応できる様にする事で話がまとまった。

(4) 自然・環境・科学部会 (科学の基礎、自然・環境と人間)

○ 部門の活動 (特色ある業務)

1) プレスメントテストの作成、実施支援、統一授業のクラス分け

2020年度入学者を対象とした工学部の必修基礎教育科目科学の基礎「微積分学」「力と運動」のクラス分けのためのプレズメントテストとそのガイダンス支援のための説明書の作成と、その採点、及び採点結果をもとにしたクラス分けを行った(「微積分学」担当：小西、「力と運動」担当：山崎)。2020年度のプレズメントテストは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策のため、従来の対面形式ではなくオンライン形式としたため、eラーニングシステムに対応できるようにした。

2) 統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について

統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について以下のような活動を行った(「微積分学」担当：小西、「力と運動」担当：山崎)

1. クラスの打ち合わせ会の運営
2. eラーニング教材の作成と改訂
3. 教科書の作成と改訂(編集委員会の立ち上げ、諸設定の検討を含む)
4. 期末試験問題の作成支援
5. 期末試験問題の全体および問題別の統計と全体成績の統計
6. オンライン形式に対応した授業ノートとスライドの作成と改訂(力と運動のみ。2020年度開講授業用だが、作成は2019年度中)
7. 過去の期末問題の整理と統計

3) 科学の基礎質問室

入試の多様化や高校の学習指導要領の変更により、高校レベルの学習習得度格差が拡大し、高大接続ための学習支援が必要な学生は年々増大している。茨城大学では全学学生対象として教養の数学・物理学の習得度を底上げし、大学の教養レベルの該当科目にも対応できるようにすることを目的とし、修士、博士課程の学生を含む学部3年生以上の学生相談員(ピアサポーター)と教員相談員(小西、山崎)を配置して科学の基礎質問室を開室した。

4) 授業改善に関するFDの実施(2019年7月16日、2020年1月8日)

授業アンケート、教員評価およびGPAの総合的分析結果を踏まえて授業改善のためのFDを開催した。

授業アンケート、教員評価およびGPAの結果を総合的に分析した結果、対象となった授業に関して、時間外学習以外においては、改善を強く促すべきものがなかった。時間外学習に関しては、eラーニングシステムを利用した宿題の実施などによる予習・復習や、グループによる時間外学修やプレゼンテーション準備などを通して、授業外の学修時間が確保する工夫は行われたが、一部の科目においての平均実時間は目標時間に達していないものが見られた。ただし、アンケートによる理解度や達成度、GPAを総合的に分析すると、時間外学習の実効果は目標時間分に相当すると判断できる。

5) 基盤教育「自然・環境と人間」と「グローバル化と人間社会」の授業において「学際型」や「文理融合型」の科目が設置できるかについて、「社会と生活部会」と部会長を中心に意見交

換を行った。「自然・環境と人間」においては「学際型」や「文理融合型」に近い科目もあり、オムニバス形式を積極的に導入する等で、複数の分野にまたがる幅広い知識を取得できる「学際型」や「文理融合型」の授業科目は、多様性が進む現代社会を理解するうえで必要であり、積極的に検討していく価値は十分あると思われる。

(5) 多文化理解部会（異文化コミュニケーション、ヒューマニティーズ、パフォーマンス&アート）

■異文化コミュニケーション（初修外国語）

異文化コミュニケーション（初修外国語）においては、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語に関する入門的科目が開設され（後学期）、第二外国語に触れる貴重な機会を提供した。これに加え、前学期に「Ⅰ」、後学期に「Ⅱ」が開講され、これら五言語について、日本で実施されている検定試験の最初の段階に合格できる水準の学修機会を提供した。

初修外国語を担当する専任教員を対象に、令和元年7月17日に前年度後学期科目についてFDを実施した。令和2年1月15日には今年度前学期科目についてFDを実施した。履修学生の授業外学修時間はおおむね増加傾向にあるが、学生の自発的な学修をさらに促進すべく、引き続き工夫することを再確認した。

■異文化コミュニケーション（初修外国語以外）

1) 活動（特色ある業務）に関して

①以下の短期海外研修を異文化コミュニケーション科目「多文化共生」として開講した。

- ・「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」
- ・「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」
- ・「短期海外研修ⅠⅡ（韓国）」
- ・「短期海外研修ⅠⅡ（サンフランシスコ・ボランティア）」
- ・「短期海外研修ⅠⅡ（オーストラリア）」

②以下の短期海外研修を異文化コミュニケーション科目「多文化共生」として開講予定だったが、COVID-19の影響のため中止した。

- ・「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」

■ヒューマニティーズ

ヒューマニティーズにおいては、思想・文学、歴史・考古学、人間科学、メディア文化、に関して多彩な授業が提供された。

■パフォーマンス&アート

パフォーマンス&アートにおいては、比較的少人数授業によりユニークなコンテンツを提供している。例えば音楽文化では独唱やオペラ、美術文化では仮名の書、絵画に親しむ授業、ダンス・演劇文化では水戸芸術館で学芸員から直接学べる授業が開設された。

(6) 社会と生活部会（グローバル化と人間社会、ライフデザイン）

■グローバル化と人間社会

○ 「社会と生活部会」の活動

- ・令和元年7月3日「社会と生活部会」において前学期および後学期開講の基盤教育科目「グローバル化と人間社会」に関するFDを実施した。従来から議論されてきたことであるが、履修学生に対して授業外学修時間の十分な取り組みを促進することが必要であると改めて認識した。部会において授業外学修時間の十分かつ積極的な取り組みを部会で平均化していく何らかの「工夫」が必要だと思われる。この点を「グローバル化と人間社会」の主たる担当教員集団が一層検討していくことを促している。
- ・ここ数年来、部会内で議論してきた「グローバル化と人間社会」において「文理融合型」科目を配置することが可能かどうか「自然・環境・科学部会」部会長と対面、メールなどでの議論を継続している。令和3年度において、基盤教育科目の編成に関する議論が始まる予定であると承知しており、その際に部会間のみならず、共通教育部門全体において「文理融合型」の授業についても問題提起し議論を深めていくことが望ましい。

■ライフデザイン

本年度から新規に、「ライフデザイン（1単位・3年次必修）」を学部と連携して開催した。社会に出て活躍できる能力を身に付け、働く意義を理解し、自らの将来に思いをめぐらし、今後の主体的な生き方を設計できる能力の基礎をつくるカリキュラムを学生全員が履修する。

各学部との連携の中で、「活躍する職業人」の話を学生が直接に聞ける機会を設けている。産業技術の専門家、農業協同組合、金融広報中央委員会、教育委員会、地域環境調査の専門家など、多様な方々から授業の協力を得た。

身近な社会を知る1年次の「茨城学（必修）」、1年次、2年次を対象とした「仕事を考える（選択）」、「インターンシップ実習（1単位・選択）」、日立キャンパス開講の「キャリアデザイン論（1単位・選択）」と合わせ、大学での学びを活かし、キャリアを考えるための授業をキャリア教育体系に位置付けた。

(7) グローバル英語プログラム部会

○ 部門の活動（特色ある業務）

中期目標達成のための方策として、GEP 運営上の問題点とその解決策について、GEP 専門部会会議を通して協議してきた。中期目標の達成のための施策として（1）学習者のニーズ分析によるシラバス改善（2）受講学生の英語力の二極化による授業難度の設定検討（3）PR（授業紹介ビデオ等）（4）インセンティブ強化を検討してきた。また、GEP の質保証として（1）GEP 授業担当者の確保と授業改善（2）令和2年度用シラバスチェック（3）「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英語版の配布を行ってきた。

中期計画の目標は、GEP 受講者数が2年次生320名（学年1600名の20%）、3年次生320名（学年1600名の20%）であるのに対して、GEP 受講学生数合計はH30年度が87名（導入1年目で2年生のみ）であったのに対して、R1年度が252名（2年次生、3年次生）、全体の7.9%と

増加してきている。前提となる TOEIC550 点以上の GEP 受講対象者数の増加についても、英語力の高い入学者を求める必要性や全体的な英語力の底上げの必要性が指摘された。また、履修促進の方策としては、GEP に対する理解、認知度がまだ高いとは言えず、内的（シラバス精査）、また外的（PR 活動）アプローチを用いる必要があげられた。ビデオ PR 及び GEP を受講するインセンティブの強化が検討された。

1. GEP 履修促進の方策（GEP の現状と改善点）

各学部の GEP 科目の充実（専門科目を含む）

（1）学習者のニーズ分析によるシラバス改善

第 3・4 クォーター終了時に GEP 受講生を対象として Dream Campus 上でアンケートを実施した。主な内容は GEP 科目履修の動機、満足度、要望等。集計・分析は次年度とする。

（2）受講学生の英語力の二極化による授業難度の設定検討

プログラムの導入により受講学生の英語力の二極化により授業難度の設定に支障をきたしていることがアンケート結果及び授業担当者から問題点として挙げられた。そこで GEP 科目の中で、例えば TOEIC 740 点以上の上級（Advanced）レベルとそれ以下の中級（Intermediate）レベルを設定し、シラバス等で明記することでより受講学生の英語力に合致した授業構成を図ることが対応策のひとつとして挙げられる。

（3）PR（授業紹介ビデオ撮影）

分かりやすいシラバスやプログラム概要を学生に伝えられるようにする必要があることから昨年度動画撮影した授業風景（授業担当：瀬尾先生）を今後ガイダンスや HP 掲載を通して PR する。

（4）インセンティブ強化の検討

大学院入試の際の利用の可能性について機構・全学教務委員会へ提言を検討する。また、農学部の AIMS プログラム参加のように、各学部での GEP 受講メリットが明確になると効果的である。更に、他大学、他学部を参考にしながら留学プログラムの充実を図る（例：千葉大学の全員留学制度や、茨大農学部国際職産業コース全員の留学制度）。GEP 終了学生が学生間で認知されることにより他の学生のモチベーションを喚起する。更に全学教育機構の HP や「茨城大学コミットメント」等での GEP 受講者の記事や写真掲載を検討する。

2. GEP の質保証

GEP 各科目のシラバス、内容等についてはガイドラインに基づき授業担当者個人に任されている。質保証という点でシラバスチェックによる現状把握が必要であるため、令和元年度分のシラバスより GEP 部会によるシラバスチェックを実施した。評価方法については、GEP の評価基準を設けて次年度の評価の適正化に努めることとする。またネイティブの担当者も多いことから、ガイドラインの英語版を作成し、GEP 各授業の質的向上に努めることとした。

（1）GEP 授業担当者の確保と授業改善

GEP 授業担当者について、水戸地区は人文社会科学部教員が中心であるが、阿見地区、日立地区とも非常勤に頼っている。まず、学生の声をいかした授業を行える先生の確保が重要である。プログラム自体の訴求力を上げるために、各科目で改善し続け、学生にとって意義あるものを提供することが重要。AE IIC は、GEP へ段階的な準備を行うブリッジ

的存在になるように、授業内容の改善や差別化を継続して行う必要がある。

(2) 令和2年度用シラバスチェック

クオリティコントロールの観点から、令和元年度に開講している GEP 科目のシラバスの形式及び内容についての確認作業を下記の通り実施した。

GEP 科目シラバス	担当部会員
TOEIC and TOEFL 3 科目、English for Socializing 2 科目	小林
Reading & Discussion 5 科目	岡崎
Studies in Particular Fields 1 科目、Studies in Contemporary Japan 1 科目、Presentation in English 3 科目	瀬尾
Studying Abroad 1 科目、Academic Writing 3 科目	塚田
Bilingualism 1 科目、Academic Speaking 3 科目 Studies in Particular Fields 1 科目	館
Reading & Discussion 5 科目	菊池

(3) 「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英語版の配布

GEP 科目の質的な向上を図るため、英語のネイティブスピーカー教員用に、各部会員が分担して「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英訳を部会員全員で確認し授業担当者に配布し、GEP 授業設計の共通認識を図った。

(8) 日本語教育プログラム部会

(1) 活動（特色ある業務）に関して

外国語としての日本語を指導するために必要な専門知識と基礎能力の習得を目的としたプログラムである。人文社会科学部と教育学部の学生を対象としている。人文社会科学部のサブメジャーになっている。

◎ 日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

レンヌ第一大学に2019年度初めての学生を派遣し、日本語教授法演習(海外)を実施した。レンヌ第一大学に留学した学生は「トビタテ!留学 Japan」の奨学生に選ばれている。また、学生1名が韓国のインジェ大学で日本語教授法演習(海外)を行う予定であったが、COVID-19の影響のため、断念することとなった。同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の平成31年度海外留学支援制度(協定派遣)短期研修・研究型(タイプB)に採択されている。

(2) 関連イベントの報告

①ベトナム・ハイフォン大学との授業交流

ベトナム・ハイフォン大学で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法 I」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。



②アメリカ・ウィスコンシン州立大学スペリオール校との授業交流

ウィスコンシン州立大学スペリオール校で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を実施した。



③「ベトナムの日本語教育を知るインターンシップ」の実施

「日本語教授法Ⅰ」を履修する学生のうち9名が、「ベトナムを知るインターンシップ」(2019年12月6日～10日)に参加した。タンロン大学で行われた「言語文化教育研究 国際研究集会」のお手伝い、オンラインによる授業交流を行ったハイフォン大学を訪問し、対面での交流を実施した。



(9) 地域志向教育プログラム部会

1) 部門の活動

①「茨城学」の推進

5年目を迎えた全学生必修の「茨城学」については、全学教育機構初年時教育部会での運営が3年目となった。コーディネーターは3名から1名の体制となり、業務・工程の見直しを図りつつ、授業の質を担保すべく取り組んだ。グループ分けして行ったディスカッションでは、全体の運営、各グループへのファシリテーションを行いつつ、自律的な対話と学びがなされるように、毎回各チームからキャプテンが立ち、ディスカッションの進行や取りまと

めを行った。また、受講生が持参する PC などのデジタルデバイスの活用に取り組み、講義資料の確認、講義の記録、講義で設定された個人ワークの記録、グループディスカッションの記録など、多くの受講生がスムーズに活用していた。

内容的には、前年から継続して(株)鹿島アントラーズ FC に登壇いただくとともに、今年度は、独立行政法人防災科学技術研究所に新規に登壇いただいた。

受講生は全学部 1660 名であった。

② 「5 学部混合地域 PBL」 の実施

全学共通科目の「5 学部混合地域 PBL」は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳが開講された。5 学部混合地域 PBL Ⅰ（1 年生以上対象、連携先：ひたちなかまちづくり株式会社ほか）、同Ⅱ（2 年生以上対象、連携先：株式会社サザコーヒー）、同Ⅲ（1 年生以上対象、連携先：茨城県、常陸大宮市）をいずれも夏季集中の形式で例年どおり実施した。それぞれ 29 名、26 名、29 名の受講生であった。

「5 学部混合地域 PBL Ⅳ」は、茨城県国際観光課の協力を得て、外国人留学生と日本人学生が協働で海外に向けて茨城をアピールするプロジェクト型の PBL 授業である。令和元年度の前学期に 5 学部の 1 年生以上を対象に行った。日本人学生 14 名、留学生 6 名の計 20 名が受講した。授業での使用言語は英語で、グループでブログ、Instagram、YouTube などのソーシャルメディアを活用し、茨城県の PR を行った。

写真1 授業の様子



写真2 茨城県国際交流課職員を招いたセッション



写真3 最終報告会の様子



写真4 ウェブポスター

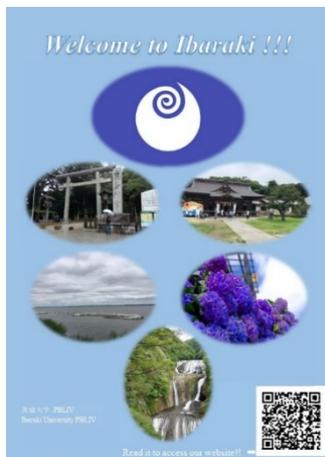


写真5 Instagram

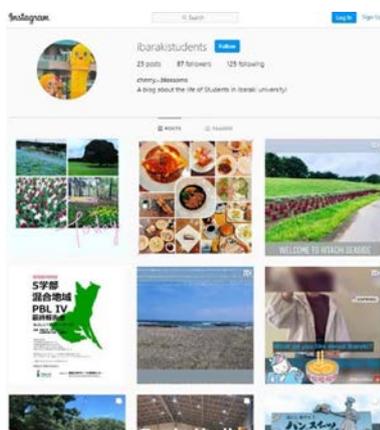


写真6 ブログ



2) 地域志向教育プログラムの修了生

平成 27 年度から開始された本プログラムも 5 年が経過し、令和元年度には 93 名のプログラム修了生を輩出した。なお、令和 2 年度には 118 名が修了見込みである。

(10) 地域協創人材プログラム部会

1) 部門の活動 (特色ある業務活動)

① 「茨城学」の COC プラス参加校への配信

COC プラス事業大学間連携地域志向科目である茨城大学全学教育機構基盤教育科目「茨城学」の COC プラス参加校への配信を例年通り実施した。時間割が合わない茨城高専については、引き続き DVD 録画で学内閲覧可能とすることで共有した。茨城大学では全学必修科目のため 1,660 名、茨城キリスト教大学では 53 名、常磐大学では 34 名、県立医療大学では 70 名の学生が受講した。配信 3 年目となり他大学の受講者数は着実に増加している。

本年度からは COC プラス参加校からの講師の登壇が開始された。初回となる令和元年度は茨城県立医療大学より講師が登壇し、「茨城の医療について考える」をテーマに実施した。他大学の先生であることも含め、学生達には通常聞くことのない内容の講義を聞いて考えをまとめる良い機会となったようである。なお令和 2 年度は茨城キリスト教大学が「地域の子育て事情」について、令和 3 年度は常磐大学が「茨城の防災」について、そして令和 4 年度は茨城工業高等専門学校が「茨城の環境問題」について講義を 1 コマ担当することが決定している。

写真 1 遠隔講義システム(VCS)による「茨城学」共有の様子



② 「地域協創 PBL」の新設

「茨城学」をはじめとする地域志向科目の受講を通して萌芽した地域志向を更に醸成させるため、地域・生活につながり、更に COC プラス (課題解決型) インターンシップをより有

効的に捉え実践する準備のためのプレインターン科目として、COC プラス参加校で相互乗り入れ可能な「地域協創 PBL」を新設し、令和元年度より実施した。

5つ目の5学部混合地域 PBL として令和元年度に開始された「地域協創 PBL」は、COC プラス参加校とともに取組む PBL 科目であり、(一社)日本自動車連盟(JAF)茨城支部の連携講座として、地域振興について学ぶことを目的としたフィールドワーク科目である。初年度は茨城県の観光における地域資源を実践的に学ぶため、観光振興に取り組む企業(具体的には茨城ロボッツの子会社である(株)いばらきスポーツタウン・マネジメントとひたちなか海浜鉄道(株))への現地視察や関係者へのヒアリングを通して各観光資源の強みと弱みを把握し、観光による新たな地域振興プランの提案をグループワークとディスカッション形式で行った。2019年9月11~13日の夏季集中で開講し、茨城大生8名と茨城工業高等専門学校生6名の計14名が受講した。企業訪問による現地視察、そして他校生とのアクティブラーニングを通して、まさに地域課題を自分事として解決しようとする姿勢を体験した(写真2)。やはり他大学の学生との交流は互いに大きな刺激となったようで、講義終了後にも「普段接することの少ない他校の学生との交流がこの授業の大きな意義であった」との声がよせられた。なお、学生に後日提出させたレポートについては JAF 茨城支部が取りまとめ、茨城県庁へ「意見書」として提案した。本授業はマスコミでも取り上げられた(図1)。



左)写真2 ひたちなか海浜鉄道(株)での車両基地見学の様子

下)図1 令和元年9月17日茨城新聞への掲載記事



③課題解決型インターンシップの実施

COC プラス参加校間で相互乗り入れ可能な課題解決型インターンシップとしては平成30年度には(一社)JAF 茨城支部への本学学生1名のみでの参加であったが、令和元年度には(有)内山味噌店(3名)、(株)茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント(2名)、茨城トヨタ自動車(株)(11名)において他校との相互乗り入れでのインターンシップが成立した。本稿では日立市で味噌及び発酵食品の製造・販売を行っている(株)内山味噌店でのインターンシップを例に報告する。

茨城大学より2名、常磐大学より1名の計3名が夏休み中の5日間、課題解決型インターン

ンシップに取り組んだ。『地元で愛される販売店舗にするための提案』を課題とし、それぞれ独自の観点から1名ずつ異なる提案を行った。提案の一つであった「購入した商品をInstagram用に撮影するための展示棚の作成」は、実際に試作品を作成する段階にまで到達した(写真3)。従業員からは、「仕事の中で気づかない提案があり、大いに刺激になった。試作した棚をバージョンアップして実際に使わせていただきます」と大変好評であった。

これら課題解決型インターンシップは本学では各学部のインターンシップ科目、もしくは共通教育の「公共社会」における「インターンシップ実習」として単位付与されている。

写真3 メンターとの意見交換の様相(左)と
実際に試作した「インスタ映えするジオラマタイプの商品展示棚」(右)



2) 関連イベント

① インターンシップマッチングフェアの開催

インターンシップ科目への関連イベントとして、地域企業との連携強化に向けた学生への情報提供とマッチング環境の整備のため、本年度も夏季に「令和元年度いばらき COC プラス 合同インターンシップマッチングフェア」を7月6日(土)に開催し、本学及びCOC プラス参加校の学生計72名が参加した。前年度の開催が好評だったことから、本年度は卒業後2～3年以内の若手OB/OGとの交流会を兼ねる形で開催した(写真4)。やはり歳の近い先輩との交流は会話が弾みやすく、「同じ大学出身の先輩からの話を聞くことができ、入社後のイメージがつかみやすかった」、「OB/OGの生の声をきくことができ参考になった」等、満足度95%以上の高い評価であった。

写真4 夏季インターンシップマッチングフェアの様子



3) 地域協創人材教育プログラムの認定

平成 28 年度から開始した本プログラムも 4 年が経過し、本年度は初めての「地域協創人材」の認定者を 6 名輩出することができた。令和 2 年度末には COC プラス参加校からも初めてのプログラム修了者が卒業する見込みである。令和 2 年度の認定見込み者は本学で 43 名であり、COC プラス参加校を含め約 60 名の「地域協創人材」が輩出されるものと見積もられている（令和 2 年 7 月 1 日現在）。

(11) AIMS プログラム部会

1) AIMS 部門の活動

AIMS (Asian International Mobility for Students) とは、SEAMEO RIHED (東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター) が主導する国際共同教育推進プログラムであり、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、ブルネイ・ダルサラーム、シンガポール、韓国および日本の 9 か国 (2019 年現在) が加盟している。その目的は、政府奨学金の支給により、「ASEAN 共同体」の持続的発展に資する 10 分野 (農学、工学、食糧科学技術、経済学、国際ビジネス、言語・文化、観光科学、環境管理科学、生物多様性、海洋学) の学生交流を促進し、国際的な視野をもった人材を育成することである。日本からは文部科学省が指定する 11 大学のみが参加しており、本学は、東京農工大学、東京都立大学と協働して「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」を目標に掲げて交換留学生の派遣・受入に取り組んでいる。

本学は、地域社会の持続的発展の基礎となる安全な地域づくりと環境保全に主眼をおいた「地域サステナビリティ」をテーマとして、受入学生向けに「環境変動適応・防災論」や「環境共生論」、「環境保全型農業論」など 10 科目 15 単位の AIMS プログラム科目を開講している (大学共通科目としての運用は平成 30 年度より)。令和元年度は、AIMS 加盟大学であるボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、スリウィジャヤ大学、カセサート大学から計 10 名の交換留学生を農学部特別聴講学生として受け入れた。また、原則として留学が必須となる農学部食生命科学科国際食産業科学コース学生の派遣先となるジェンデラル・スディルマン大学、キングモンクット工科大学、ナレスアン大学から受け入れた農学部特別聴講学生 3 名や、一般の交換留学生として農学部配属となったルフナ大学の 2 名も AIMS プログラム科目を履修した。

2) AIMS 関連イベントの報告

AIMS プログラム科目は主に AIMS 加盟大学からの留学生を対象とする科目群であるが、本学学生も英語による専門科目への挑戦、あるいは留学の準備として受講することが可能である。受入学生に対しては、授業科目の開講のみに留まらず、来日期間全体を通して受入プログラムとして管理運営しており、入国から帰国まで担当教職員が一貫してサポートを提供することで、受入学生の安全管理と満足度の向上に寄与している。



【環境変動適応・防災論 非常勤講師・Frank 博士（左）、教育学部・伊藤孝教授（右）】

また、地域サステナビリティ学セミナー・ラボワーク（計 3 単位）を設定し、学生たちの希望に沿って研究室に配属して継続的な実験・実習の機会を提供し、十分な研究体験を与えることで、本学学生との密接な交流を実現している。また、研究室配属により修士課程への進学が促され、これまでに AIMS 受入学生 2 名が国費留学生（大学推薦）として大学院農学研究科に入学している。



【作物学研究室・安達助教によるラボワーク（左）、学生による成果発表（右）】

AIMS による交換留学生の増加にともない、相互交流の機会が飛躍的に増加している。特に、学生が組織した留学生支援サークル“Let's Hang Out”が中心となって様々なイベントを行い、留学生の受け入れ環境向上に寄与している。これらの活動により、日本人学生も英語運用能力を身に付け、派遣プログラムへの参加が促進されている。



【学生サークルによる AIMS 学生交流会】

グローバル教育センターの瀬尾講師が中心となって実施している阿見町国際交流協会との協働事業（平成 30 年度に中島記念交流財団による助成を受けて実施）を継続し、AIMS 受入学生・日本人学生と阿見町民との交流事業をおこなった。受け入れ期間中、計 3 回の English カフェを実施し、本学学生や地域住民との交流機会を得た。また、茨城県立水戸第一高等学校が実施する「茨城大学留学生と連携した国際理解授業」の一環として同校を訪問し、出身国の文化紹介や日本での学習状況などについて発表をおこなった。



【阿見町・English カフェ（左）、水戸一高訪問（右）】

(12) 大学院共通科目部会

○「大学院共通科目部会」の活動

- ・令和元年度において、計 4 回の大学院共通科目部会を開催し、大学院共通科目の見直しについて検討した。終了時に学生がディプロマポリシー（DP）のすべてを満たす必要があることから、必要な科目を選定した。また、現在から将来にむけて求められる大学院共通科目の役割をふまえ、実施要項の改訂を議論した。
- ・大学院共通科目について現状確認と課題検討を行ったところ、DP のうち、キャリアの地域が薄いことが明らかとなり、検討した。また、カリキュラム実施要綱の見直しでは、受講場所の制限規定の緩和、VCS 授業の取り扱いについて議論した。
- ・DP の充足については、各研究科全体で満たせばよいとすることを確認した。また、科目の精選を行い、現状の 22 本開講のうち 10 本を廃止、6 本を新規に開設した。新規開講の科目は DP を満たせる科目とした。

- ・大学院共通科目実施要綱を策定した。その中で科目群を I:横断型基盤科目、II:地域サステイナビリティ科目の 2 群に分け、大学院共通科目の役割を規定した。また、遠隔授業 (VCS) の運営方法についても規定した。
- ・平成 30 年度開講の科目について、FD 活動を行い、科目運営が円滑になされていることを確認した。

(13) AI・データサイエンス専門部会

○部門の活動 (特色ある業務)

SDGs や超スマート社会 (Society5.0)、第 4 次産業革命など、社会変化が激しく予測不可能な時代において、数理・データサイエンス教育が未来社会を開くと期待されている。本専門部会では、AI・データサイエンスと社会の関りを学ぶことを目的に、「AI・データサイエンス入門」を 3Q、4Q にて開講している。全 8 回のオムニバス形式で実施し、部会のメンバーである IT 基盤センターおよび工学部、全学教育機構の教員が担当している。昨年度に開講したパイロット授業では 25 名を対象にし、その受講生の理解度、満足度は共に 87.5% と高評価であった。今年度 3Q では 48 名が受講し、その理解度、満足度はそれぞれ 68.3%、73.2%、4Q では 47 名の受講生に対してそれぞれ 73.2%、85.4%という結果になり、受講者数が増えたにも関わらず、おおむね高評価を維持した実施になった。なお、本部会は今年度で解散し、これまでの活動は来年度に発足する数理・情報・データサイエンス部会へ引き継がれる。

- ・パイロット科目として「AI・データサイエンス基礎演習」を開講

今年度は、AI・データサイエンスの仕組みとして技術的な基礎を演習にて学ぶことを目的に、パイロット授業として「AI・データサイエンス基礎演習」を 4Q に開講した。教員 2 名 (機構、IT 基盤センター)、TA (1 名) にて BYOD 科目として全 8 回で実施し、前半 4 回ではデータサイエンスに関する演習、後半 4 回では深層学習の基礎としてのニューラルネットワークに関する演習を行った。受講生 21 名 (人文社会科学部 6 名、理学部 2 名、工学部 13 名) に対しての理解度、満足度はともに 84.6% であり、受講生の 3 割程度が非理工系であるにも関わらず高評価であった。

○学生支援部門

1. バリアフリー推進室関連

① 学生相談件数

3 キャンパスにおける相談体制強化を図り、相談件数は前年度を更に上回った。

バリアフリー推進室	区分	水戸	日立	阿見	計
キャンパス別・相談件数	延べ人数（名）	1233	663	330	2226
	実人数（名）	172	98	35	305

※ 過去相談件数との比較

2017 年度にバリアフリー推進室が全学教育機構下に入り本格始動してから、3 キャンパスでの相談体制を整備し、相談件数は格段に伸びた。2019 年度は前年度を更に上回る相談件数となっている。

2016 年度（水戸キャンパスのみ）：延べ人数 307 名 実人数 41 名

2017 年度（水戸・日立・阿見 合計）：延べ人数 1519 名 実人数 201 名

2018 年度（水戸・日立・阿見 合計）：延べ人数 1855 名 実人数 248 名

② 授業等における合理的配慮手続き

- ・ 配慮に向けての相談及び実際の手続き等を行った人数 21 名
- ・ これらの学生が受講する各授業の配慮内容検討と各部局との適切な配慮の調整等をコーディネートした。

③ 2020 年度入試における障害等のある入学志願者の事前相談

- ・ 受験上等配慮人数 実人数 20 名
- ・ 申請のあったこれら受験者の適切な配慮について、受験者とのやり取り、当該部局との適切な配慮の調整等を行った。

④ ピアサポーターの育成

2018 年度に茨城大学学内における専門ピアサポーター認定制度を新たに整備し、研修や認定試験合格後に全学教育機構長による認定を受け、正規活動を行う形を整えた。

1) ピアサポーター・ゆめ大会サポートボランティア情報提供希望登録学生数 104 名

2) 専門ピアサポーター認定学生数 7 名

3) 専門ピアサポーター養成講座（研修会）開講及び認定試験実施：計 7 回

- ・ 2019 年 4 月 15 日 「ピアサポーターとしての心構え①」
- ・ 2019 年 5 月 20 日 「ピアサポーターとしての心構え②」
- ・ 2019 年 6 月 13 日 「精神障害を理解する①」
- ・ 2019 年 6 月 21 日 「発達障害を理解する①」

- ・2019年6月27日 「精神障害を理解する②」
- ・2019年7月8日 「発達障害を理解する②」
- ・2020年2月10日 専門ピアサポーター（運営ピアサポーター）認定試験

⑤ アクセシビリティリーダーの育成

多様な可能性を開拓する社会の構築推進をしていくために、必要なアクセシビリティに関する知識・技術・経験とコーディネート能力をもった人材を輩出することを目的とした、アクセシビリティリーダーの育成のための体制整備等を行った。

2019年度は、昨年度に引き続きアクセシビリティ教育第1課程及び、新たに第2課程の承認をアクセシビリティリーダー育成協議会より得て所定の講座を開講し、本学からアクセシビリティリーダー認定試験合格者1級2名（内、学生2名）2級9名（内、学生7名、教員2名）を輩出した。

⑥ ピアサポ室

障害のある学生とピアサポーターが学修や生活に関する相談ができる場所として、2018年度に開設した。履修や研究に関する相談、アルバイトに関する悩み、発達障害のある学生のパニック時の落ち着ける場所などとして利用されている。

* 2019年度利用学生数 延べ人数 102名

⑦ 障害のある学生を対象とした自主学習室の整備

2017年度に開設し、試験的に運用していた主に発達障害や精神障害のある学生の学習や休息のスペースである自主学習室（やすらぎルーム、水戸キャンパス共通教育棟1号館131室）について、2018年度より運用を本格始動し、2019年度も一定の需要があった。

※ 2019年度利用学生数 延べ人数 148名

2. キャリアセンター関連

① 就職ガイダンス関連（資料2-C-01-1：就職ガイダンス実施日程）

以下のとおり、実施した。

1) 就職ガイダンス

日時：毎週水曜3限

開催回数：66回（水戸キャンパス）

参加者：合計延べ1673名

場所：図書館3F ライブラリーホール ほか

内容：学生のインターンシップ参加や就職活動支援ガイダンス

※ 日立・阿見キャンパスでも開催しており、日立38回（参加延べ1968名）、阿見39回（参加延べ1033名）実施した。

2) 就活準備講座、テーマ勉強会（資料2-C-01-2：就活テーマ勉強会）

日時：第3クォーター（iOPクォーター）期間

開催回数：8回×2クラス（メンバー固定の火曜クラス、自由参加の金曜クラス）

参加者：合計延べ 128名

場所：スチューデントコモンズ

② 説明会

1) 合同企業説明会（資料 2-C-02：合同企業説明会）

水戸キャンパスでは下記日程にて8月より準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。代替措置として3月以降、説明会参加企業を主とした資料提供ブースを共通教育棟 1F 出入口に新たに設けるなどの措置を講じた。

日時：2020年3月1日（日）、2日（月）、3日（火）10：00～16：00

場所：図書館 1F 共同学習エリア

内容：学部3年生、修士1年生を対象とした就職のための企業説明会

参加企業：216社

※ 日立キャンパスでも中止とした。代替措置として、合同企業説明会ガイドブック及び出展を予定していた企業等のパンフレットの設置・配布等を講じた。2019年度は企業研究会を2020年2月17日(月)～20日(木)、企業説明会を2020年3月2日(月)～5日(木)に予定していた。（参加企業 226社）

2) 国家・地方行政団体等業務説明会（資料 2-C-03：国家・地方行政団体等業務説明会）

日時：2020年2月19日（水）12：30～16：40

場所：図書館 1F 共同学習エリア

内容：学部3年生、修士1年生を対象とした行政機関説明会

参加者：37団体、学生延べ 588名

③ インターンシップマッチングフェア

1) 茨城大学学内インターンシップマッチングフェア キャリアセンター主催（資料 2-C-04：インターンシップマッチングフェア [学内]）

日時：2019年6月5日（水）14:00～16:00

場所：図書館 1階共同学習エリア

内容：茨城県内企業への就職を考える、学部1年～3年生を対象とした、インターンシップマッチングフェア

参加者：12社 学生延べ 53名

2) 若手OB／OG交流会&インターンシップマッチングフェア COCプラス事業と共催（資料 2-C-05：インターンシップマッチングフェア [COC+]）

日時：2019年7月6日（土）10:00～16:15

場所：駿優教育会館

内容：学部1～3年生を対象とした企業等26社のインターンシップマッチングフェア

参加者：72名

④ 業界研究

1) 「就活応援バスツアー 茨キャリア号」キャリアセンター主催 (資料 2-C-06 : バスツアー)

日時：2020年2月18日(火) 8:30～16:40

場所：茨城セキスイハイム、JA 茨城中央会、イトウ製菓、ユードム

内容：企業を訪問し、会社説明・職場見学・若手職員との座談会・質疑応答

参加者：5名

2) 業界研究会 (資料 2-C-07 : 業界研究会)

日時：2019年12月～2020年2月

場所：キャリアセンター

内容：学生が直接業界の情報収集を濃密にできる機会として学内に企業を迎え開催

参加者：19業界、学生延べ104名

⑤ 実践的な就職支援

1) 未内定者向けキャリア相談

日時：2019年9月2、3、9、10、24日

内容：夏時点で未内定の者に向けた就職相談会

参加者：延べ14名

2) 面接練習会

開催回数：22回

参加者：延べ114名

3) グループディスカッション対策講座

開催回数：22回

参加者：延べ226名

4) 就職模擬面接会 人文社会学部と共催

日時：2019年12月11日(水)

場所：人文社会学部

内容：2社の企業人事担当者を迎えての模擬面接会

5) 内定者セミナー

日時：2019年12月11日(水)

場所：図書館1階共同学習エリア

内容：今年度内定の決まった4年生による3年生への就活のノウハウの説明会

⑥ 就職支援関連における上記以外の活動

1) キャリア教育

1年次からの体系的なキャリア教育の構築に関しては、身近な社会を知る1年次の「茨城学(必修)」、前年度に引き続き1年次第4クォーター、2年次第2クォーターに「仕事を考える(選択)」をCOC及びCOCプラス事業と連携して開講した。また、昨年につき1・2年次対象に「インターンシップ実習(1単位・選択)」を開講した。

更に、今年度は新たに、日立キャンパスにて2年次が履修できる「キャリアデザイン論(1単位・選択)」を開講した他、3年次に「ライフデザイン(1単位・必修)」を下記の通り、学部と連携して開催した。社会に出て活躍できる能力を身に付け、働く意義を理解し、自らの将来に思いをめぐらし、今後の主体的な生き方を設計できる能力の基礎をつくる。大学での学びを活かし、キャリアを考えるための3年次必修授業をキャリア教育体系に位置付けた。

科目名「ライフデザイン-社会と私」	
学部	受講者数 (合計 1603 名)
人文社会科学部 L1	188
人文社会科学部 L2	181
教育学部 P1	174
教育学部 P2	102
理学部 S1	100
理学部 S2	96
工学部 T1	270
工学部 T2	266
工学部 T3 フレックス	44
農学部 A	168
各学部共通集中講義	14

2) 茨大キャリアナビの機能強化

キャリアセンターで利用している「茨大キャリアナビ」の機能を活用し効率化と活性化を図った。学生のログイン方法を教務情報ポータルシステムと同じ方法にするシボレス認証にカスタマイズすることにより利便性を向上させた。また、一元管理したWEB予約システムについても予約状況をセンター内に共有することにより学生の間合せ等に速やかに対応できるよう見直した。また、予約無しの相談にも随時できる限り対応した。

3) iOP の周知 (資料 2-C-08 : iOP インターンシップ[JICE])

iOPのインターンシップとして、2018年度に連携協力協定を締結した一般財団法人日本国際協力センター(JICE)との連携企画としてSDGs体験インターンシップ(2019年10/2~10/30 毎週水

曜日開催 6 名参加)を企画・実施した。

4) 留学生を対象とした就職支援 (資料 2-C-09 : 留学生のための就職研究会[JICE])

学生を対象とした就職支援を今年度新たに手掛けた。JICE 日本国際協力センターと連携し「留学生のための就職研修会」を各 8 回開講した (2019 年 11/6、11/20、12/4、12/18、2020 年 1/8、1/22、2/5、2/19)。

5) キャンパス間の格差是正

3 地区に就職支援担当部署を置き、キャリアカウンセラーによる就職相談、就職ガイダンスをはじめ各種就職支援が同様に行われる体制をとっており、2019 年 9 月 20 日に「カウンセラー会議 (3 地区)」を実施し、各キャンパスの情報共有及び課題共有を行った。また、キャリアセンター専任教員が日立・阿見キャンパスに出向き、各キャンパスの課題把握に努めた。

6) 海外インターンシップ

「日立オートモティブズ (HAMS) 海外事業所インターンシップ」を工学部主導のもとサポートし実施 (約 2 週間の本格的な海外インターンシップ、理工学研究科学生対象、中国 1 名)、また「青年中国上海スタディーツアー」(茨城県国際交流協会主催、キャリアセンターサポート、2020 年 3 月 2 日～6 日、参加学生 6 名) の開催を予定し準備を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。

7) 障害のある学生への就職支援

発達障害等のある学生について、昨年度に引き続きキャリアセンターのキャリアカウンセラー及びバリアフリー推進室カウンセラーによる就職に関するカウンセリング、日立キャンパスにおけるランチ会企画等の支援を実施した。

8) キャリアセミナー

キャリアを見据えた大学生の研究テーマの見つけ方講座として(株)リバネスを講師に招き「キャリアディスカバリーセミナー」を開催した (2019 年 10 月 30 日、参加 4 名)

まち・ひと・しごと創生本部で作成した「RESAS」地域分析資料を就職活動に役立てるため経済産業省関東経済産業局より講師を招き「地域経済分析システム「RESAS」研修会」を開催した (2019 年 11 月 27 日、参加 17 名)。

9) 新型コロナウイルス感染症対応

2020 年 3 月に予定されていた学内合同企業説明会を新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から学生の安全を第一に考え中止を決定した。代替策として感染対策を講じた上での資料コーナーの設置、4 月からの遠隔相談体制の構築など、多くの規制がある中でも学生に必要な対策を講じた。また、就職活動の移動が規制されている中で様々な不安を抱えている学生を支援するため、コロナ禍での安全に配慮した就職ガイダンス・説明会を実施すると共に、キャリア相談数を増加し、一人一人に寄りそった対応を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、センター内3密の解消、飛沫防止版、手指消毒薬の設置など感染防止に努めた。また、キャリア相談の遠隔実施について検討を実施した。

(2020年4月から遠隔対応の相談体制を構築)

3. 学長と学生の懇談会 主催 (資料 2-G-01 : 2019 年度前学期 学長と学生の懇談会 (実施報告)、資料 2-G-02 : 2019 年度後学期 学長と学生の懇談会 (実施報告)、資料 2-G-03 : 2019 年度学長と農学部学生の懇談会 (実施報告))

① 2019 年度前学期 学長と学生の懇談会

日時 : 2019 年 7 月 10 日 (水) 14 : 30 ~ 17 : 00

場所 : 社会連携センター3階 研修室

内容 : 学部 2 年次以上を対象として、「ディプロマポリシー」や「iOP」などの本学の新たな取り組みや学生生活について、三村学長の進行のもと、クリッカー (即時型集計処理機器) を活用し議論を深めた。学生から出された意見については当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者 : 学生 48 名 (5 学部 : 2~4 年生)、教職員 14 名 (三村学長、太田理事・副学長ほか)。

成果 : 懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

② 2019 年度後学期 学長と学生の懇談会

日時 : 2020 年 1 月 24 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 30

場所 : 共通教育棟 2 号館 4 階 41 番教室

内容 : 新入生を対象として、大学入学前後での大学生活における印象の違いをはじめ、本学の新たな取り組みや大学生活全般で感じたことなどについて、太田理事 (学長代理) の進行のもと、クリッカー (即時型集計処理機器) を活用し、太田理事が質問をしながら議論を深めた。学生から出された意見については当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者 : 学生 55 名 (5 学部、1 年生)、教職員 12 名 (太田理事・副学長ほか)。

成果 : 懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

③ 2019 年度 学長と農学部学生の懇談会

日時 : 2019 年 12 月 4 日 (水) 14 : 30~16 : 15

場所 : 農学部 100 番講義室

内容 : 農学部学生を対象に、事前に学生から出された教育及び学生生活への意見等について、クリッカー (即時型集計処理機器) を用いて回答してもらい、その回答結果をもとに学長が学生に質問を投げかけ、関連する話題を引き出して議論を深めた。

参加者 : 学生 47 名 (2~4 年生)、教職員 13 名 (三村学長、戸嶋農学部長ほか)。

成果 : 懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

4. 学生支援に関する FD/SD 主催 (資料 2-G-04 : ゲートキーパー養成講座チラシ、資料 2-G-05 ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果)

① ゲートキーパー養成講座

日時 : 2019 年 2 月 12 日 (火) 15:00 ~16:30

場所 : 共通教育棟 2 号館 11 番教室 (日立・阿見キャンパス VCS 配信)

内容 : 白鳥裕貴医師 (茨城県立こころの医療センター 精神科) より、①大学生の自殺の背景、②大学生の自殺予防、③自殺が起こった時の対応などについて、説明があった。

参加者 : 教職員 57 人 (水戸 32 人、日立 12 人、阿見 13 人)

成果 : 講座終了後の参加者を対象としたアンケート調査 (回答者 30 人) より、90%がゲートキーパーへの理解が深まり、50%が自身にとって非常に有益な内容だったと評価していることが確認された。しかしながら全学の教職員数をふまえると、今回の参加者数は極めて少ない。今後更にゲートキーパー等の認知を広めるための機会の提供が必要と考えられた。

5. 各学部における学生担任マニュアルの制度化 (資料 2-G-06 : 担任マニュアル作成報告 (教育研究評議会資料))

学生支援部門会議及び中央学生委員会にて意見交換及び調整をし、2018 年度に作成した見本マニュアルを参考に各学部で調整をし、2019 年度は試行期間として充実を図り学部単位での学生担任マニュアルを作成した。

6. いきいき茨城ゆめ大会 iOP 関連

茨城県の協力要請を受け、本学がいきいき茨城ゆめ大会選手団サポートボランティア養成校となった。サポートボランティアを養成するとともに、ボランティア活動を iOP 及びボランティア授業単位として認定するための制度整備を行い、約 100 名のボランティアを育成した。しかしながら、台風 19 号の影響により大会が中止となったため、代替ボランティア活動を行い、以下のとおり認定した。

- ・ゆめ大会代替ボランティア参加学生数 49 名
- ・ゆめ大会代替ボランティア iOP 認定学生数 32 名

○国際教育部門

・国際教育部門の令和元年度の活動記録は以下のとおりである。

【部門の活動・定例業務】

月	活動記録
4月	4月2-5日ー交換留学生オリエンテーション 4月5日ー交換留学継続生のためのガイダンス 4月9日ー外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス
5月	5月15日ー海外留学説明会 5月13-17日ー海外留学WEEK 5月13日ー海外ボランティア・TOEFL説明会 5月14日ー日本語研修コース レベル3 総合ポスター発表 大学紹介 5月15日ー日本語研修コース日本体験学習（農学実習） 5月29日ー日本語研修コースレベル4（総合）データセッション「インタビューデータをもとにした話し合い」
6月	6月7日ーJapanese Pop Culture A ポスター発表会 6月12日ー日本語研修コース『茶道・華道体験』 6月26日ー水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流 6月26日ー5学部混合地域PBL IV 中間報告会
7月	7月6-7日ー国際交流合宿研修 7月22日ー派遣留学生のための留学前ガイダンス 7月24日ー交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） 7月24-25日ー留学報告会 7月27日ーオープンキャンパス「国際交流留学案内」
8月	8月1日ー県内高校生向け公開講座「ちがいをたのしむー多文化共生へのはじめの一步ー」 8月1日レベル3 総合 最終発表会 8月2日ーJapanese Pop Culture B 発表会・ビデオ上映会 8月3日ー公開講座「茨城大学で学ぶ留学生と考える「日本」」（日本語研修コースレベル4（総合）の留学生による） 8月3日ー「5学部混合地域PBL IV」最終報告会 8月20-9月26日 阿見キャンパス夏季日本語補習授業
9月	9月19-20日ー阿見キャンパス新入留学生向けの集中日本語初級コースの開講 9月24-26日ー日本語研修コースのオリエンテーション 9月25日～12月18日ー公開講座『外国人に日本語を教えてみよう！』開始（全11回）

② 部門の活動 [令和元年度の活動・特色ある業務]

10月	<p>10月1日ーブリッジプログラム オープニングセレモニー・オリエンテーション</p> <p>10月7日～11月18日ーブリッジプログラム参加者のための初級日本語授業（全5回）</p> <p>10月6日ー阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業）</p> <p>10月9日～12月18日ー阿見キャンパス日本語チャット（全10回）</p> <p>10月15日ー国際社会青年育成事業 青年団との交流</p> <p>10月16日ー交換留学説明会・報告会 水戸第一高等学校訪問、文化紹介・交流（AIMS 学生、日本語研修コースレベル4の留学生による）</p> <p>10月14, 21, 24日ーベトナム・ハイフォン大学の学生との授業交流</p> <p>10月23日ー県立桜の牧高等学校訪問、文化紹介・交流（日本語研修コースレベル4の留学生による）</p> <p>10月30日ー留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー</p> <p>10月30日ー海外ボランティア・TOEFL 説明会</p> <p>10月～2月ータンデム学習プロジェクト</p>
11月	<p>11月7日ータンデム学習プロジェクト 情報交換会</p> <p>11月13日ー日本体験学習 農学実習</p> <p>11月17日ー阿見キャンパス English Cafe</p> <p>11月22日ーウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流</p> <p>11月26日ーStudies in Particular Field 発表会</p> <p>11月26日ー日本体験学習 茶道・華道体験</p> <p>11月29日ー日本語研修コース レベル4 総合「留学生のサポートを考える会」発表会</p> <p>11月30日～12月1日 第15回茨城学生国際会議</p>
12月	<p>12月6日-10日 ベトナムの日本語教育を知るインターンシップ</p> <p>12月11日ー水戸桜の牧高校常北校訪問、文化紹介・交流（日本語研修コースレベル4・5の留学生による）</p> <p>12月14日 iOP ラボ「香港は、いま。ー現地の最新レポートと対話のワークショップ」</p> <p>12月21日ー阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業）</p>
1月	<p>1月11日ー阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業）</p> <p>1月21日ー交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期）</p> <p>1月28日ーStudies in Contemporary Japan ポスター発表会 愛国学園龍ヶ崎高等学校訪問、文化紹介・交流（日本語研修コースレベル4の留学生による）</p> <p>1月28日ーチューター募集説明会</p> <p>1月29日ーSD 研修「留学生向け窓口対応のための『やさしい日本語』を考えるワークショップ」</p>

	1月30日－日本語教育プログラムガイダンス
2月	2月5日－海外留学危機管理セミナー 2月10日－インドネシア・ジョグジャカルタにて留学生同窓会

新入生ガイダンス



7月6-7日－国際交流合宿研修



11月13日－日本体験学習 農学実習



【部門の活動・特色ある業務】

1. 新規協定校の開拓

- ① スロバキアのコメニウス大学人文学部と茨城大学全学教育機構及び人文社会科学部との間の部局間学生交流協定の締結
部局間交流協定が締結され、本学学生の留学希望者の多いヨーロッパ圏への派遣枠確保と、留学生の受け入れが期待できる。

2. 短期海外研修の企画及び実施

- ① 「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」を開講した。スペイン・アルカラ大学において夏期短期語学研修が実施され、本学より7名の学生が参加した。
- ② 「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」を8～9月に開講した。ブルネイ・ダルサラーム大学において4週間にわたる英語研修が行われ、本学より11名の学生が参加した。
- ③ 「短期海外研修ⅠⅡ（韓国）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修Ⅰ（韓国）」を開講し、本学から22名（学部生20名、大学院生2名）が研修に参加し、学部生8名が同科目を履修した。
- ④ 「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」を3月に開講し、19名を3週間派遣予定であったが、COVID-19の影響で中止した。
- ⑤ 「短期海外研修ⅠⅡ（サンフランシスコ・ボランティア）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（サンフランシスコ・ボランティア）」の開講を企画して実施した。計 12 名の学生が参加し、サンフランシスコ・ベイエリアで約 2 週間活動を行い、同科目を履修した。

- ⑥ 「短期海外研修 I II（オーストラリア）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（オーストラリア）」の開講を企画し、13 名の学生が参加した。

3. 協定校との教育交流（資料 2-D-03、2-D-04）

① ベトナム・ハイフォン大学との授業交流

ベトナム・ハイフォン大学で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法 I」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。



② ウィスコンシン州立大学スペリオール校との授業交流

ウィスコンシン州立大学スペリオール校で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法 I」「日本語教授法 II」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を 12 月に実施した。



【関連イベント報告】

① 小中学校・高等学校への留学生の派遣

今年度は、以下の県内各校に留学生を派遣し、地域の中学生・高校生と本学留学生との異文化交流を図った。

- ・ 10 月 水戸第一高等学校（16 名派遣）
- ・ 10 月 県立桜の牧高等学校（3 名派遣）
- ・ 12 月 水戸桜ノ牧高等学校常北校（6 名派遣）
- ・ 1 月 愛国学園龍ヶ崎高等学校（3 名派遣）

②学生国際会議の開催

令和元年 11 月 30 日、12 月 1 日に、第 15 回茨城学生国際会議を開催した。本学の学生スタッフが主体となり企画運営を行い、2 日間を通してのべ 167 人の本学の学生・留学生、茨城県内の高校生が参加した。1 日目の学術発表はすべて英語で行われ、2 日目はドキュメンタリー映画「バベルの学校」の上映し、ゲストスピーカーとして招いた東京インターナショナルスクールの理事長とダイバーシティについて意見交換をする場を設けた。また、2 日目には弘道館の見学、作動・書道・けん玉体験を実施した。茶道体験では、学生スタッフの母校である茗溪学園高等学校の茶道同好会に協力いただき、英語で留学生にお茶の飲み方などを説明してもらったため、高校生にとっても有意義な交流であったと感じる。

③ 日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

「日本語教育プログラム」の最終科目である「日本語教授法演習(海外)」では、「日本語教授法演習(海外)」の実施校にウィスコンシン州立大学、アイダホ州立大学、レンヌ第一大学が 2017 年度から加わり、7 校となった。また、同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の平成 31 年度海外留学支援制度(協定派遣)短期研修・研究型(タイプ A)に採択され、2019 年度には 2 名が派遣された。

レンヌ第一大学に 2019 年度初めての学生を派遣し、日本語教授法演習(海外)を実施した。レンヌ第一大学に留学した学生は「トビタテ!留学 Japan」の奨学生に選ばれている。韓国のインジェ大学でも 1 名の学生が日本語教授法演習(海外)を行う予定であったが、COVID-19 の影響のため、断念することとなった。

④地域住民との交流

阿見町国際交流協会の連携事業として、以下の活動を行った。

(1) English Café

留学生と地域住民が英語で交流をする English Cafe を 10 月から 1 月にかけて、4 回開催しました。



(2) 開講座「外国人に日本語を教えてください！」

新しい日本語教師ボランティアの育成を目指して、日本語教育の初歩を学ぶ講座を開講した。



(3) 日本語チャット

公開講座「外国人に日本語を教えてください！」の受講生が、阿見キャンパスの留学生に対して日本語を会話形式で教えた。



④ベトナムの日本語教育を知るインターンシップの実施

受講生のうち9名が、「ベトナムの日本語教育を知るインターンシップ」(2019年12月6日～10日)に参加した。12月7日(土)・8日(日)は、ハノイ・タンロン大学で行われた「言語文化教育研究 国際研究集会」のお手伝い、12月9日(月)はオンラインによる授業交流を行ったハイフォン大学を訪問し、対面で交流をした。研究集会では、運営側のスタッフからの「非常に助かった」という声、発表者からの「するどい質問がきた!」という声とともに、参加する学生からも「勉強になった」と、Win-Winのインターンシップになっていた。また、ハイフォン大学の訪問では、互いの学生が積極的にいろいろな言語を使って交流をしている姿が印象的だった。

② 部門の活動 [令和元年度の活動・特色ある業務]



⑤ タンデム学習プロジェクト

教育改革推進経費の助成を受け、本学の学生 63 名と協定校の学生 68 名がペア・グループとなり、2019 年 10 月から 2020 年 2 月にかけてウェブ会議システム（SKYPE や ZOOM 等）を用いてタンデム学習を行った。タンデム学習とは、母語の異なる者同士がペアとなり、互いの言語や文化を学びあう学習形態のことである。本プロジェクトでは、定期的に情報交換会を開催し、タンデム学習の進捗状況を確認した。そこでは、タンデム学習についてだけでなく、自身の留学の計画や自身が抱えている留学に関する疑問について話す姿も垣間見られ、留学に関する情報交換の場を創出することができていた。



⑥ ブリッジプログラム

2018 年に、RISTEKDIKTI と茨城大学との間で締結した「FRAMEWORK COOPERATION AGREEMENT ON CAPACITY BUILDING PROGRAMES」に基づき実施したブリッジプログラムにおいて、インドネシア国内から 10 名の参加者を受入れ、日本語教育（初級）の提供及び英語クラスを用意するとともに、滞在中の生活に係る支援を行った。

[資料：留学生向け日本語教育（単位なし）]

前期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル 1（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	池田庸子	水戸	15	15

日本語レベル1 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3 (漢字)	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル4 (口頭表現)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	安龍洙 青木香代子	水戸	15	15
日本体験授業	安龍洙 塚田純	水戸	15	15
日本語入門	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級Ⅰ	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級Ⅱ	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語中級	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級Ⅰ (夏季日本語補習授業)	瀬尾匡輝	阿見	10	10

後期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル1 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (口頭表現)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	安龍洙	水戸	15	15

② 部門の活動 [令和元年度の活動・特色ある業務]

日本語レベル 5 (総合)	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	安龍洙	水戸	15	15
日本研究	安龍洙	水戸	15	15
日本体験学習	安龍洙・塚田純	水戸	15	15
集中日本語入門コース	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語入門	瀬尾匡輝	阿見	10	10
初級日本語 I	瀬尾匡輝	阿見	10	10
初級日本語 II	瀬尾匡輝	阿見	10	10
中級日本語	瀬尾匡輝	阿見	10	10
短期集中サバイバル日本語クラス	瀬尾匡輝	阿見	5	5

③ 令和元年度における教員の活動

[機構長]

職位	氏名	専門分野	本務所属
機構長	栗原 和美	電工工学・電気機器工学	全学教育機構・特任教授/副学長

[評議員・副機構長]

職名	氏名	専門分野	本務所属
評議員	小林 邦彦	外国語教育、応用言語学、異文化コミュニケーション	全学教育機構 共通教育部門・教授
総合教育企画部門長	下村 勝孝	解析学基礎	理工学研究科（理学野） 数学・情報数理領域・教授
共通教育部門長	篠嶋 妥	金属物性	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域・教授
学生支援部門長	西川 陽子	食品科学, 科学教育, 食生活学	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 家政教育教室・教授/学長特別補佐
国際教育部門長	佐藤 達雄	園芸学・造園学, 植物栄養学・土壌学, 植物保護科学, 作物生産科学	農学部 附属国際フィールド農学センター・教授/学長特別補佐
学務部長	向後 光典	事務統括	事務局学務部

○ 総合教育企画部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
准教授	鳶田 敏行	教育学, 環境動態解析	56

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
教授	宮崎 章夫	各学部との連絡調整、学部内での教育改善施策の立案や実施	人文社会科学部 人間文化学科
教授	吉野 聡		教育学部 学校教育教員養成課程
教授	大友 征宇		理工学研究科（理学野） 化学領域
教授	横木 裕宗		理工学研究科（工学野） 都市システム工学領域
准教授	牧山 正男		農学部 地域総合農学科

○ 共通教育部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
教授	小林 邦彦	外国語教育、応用言語学、異文化コミュニケーション	59
教授	福田 浩子	外国語教育、応用言語学、異文化コミュニケーション	61
教授	金 光男	地域研究、東アジア国際関係史	63
教授	木村 競	哲学・倫理学	—
准教授	Frederick Allan Shannon	応用言語学	65
准教授	小西 康文	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	67
准教授	菊池 武	外国語教育	69
准教授	SCHMIDT-Fajlik Ronald	言語教育、異文化コミュニケーション	71
准教授	清水 恵美子	文学一般(比較文学比較文化)、美術史、日本史(近現代史)	73
准教授	佐藤 伸也	ソフトウェア、計算機システム、情報学基礎理論	76
准教授	上田 敦子	外国語教育	78
准教授	山崎 大	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理, 天文学	80
講師	大森 真	英語教育	82
講師	佐々木 友美	外国語教育	—
講師	鈴木 聡子	外国語教育	84
講師	館 深雪	言語教育、英語教育、TESL	86
講師	大津 理香	英語教育学、言語習得	88
助教	大山 廉	外国語教育	89

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
准教授	神田 大吾	多文化理解部会；初修外国語	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	三輪 徳子	多文化理解部会；異文化コミュニケーション	人文社会科学部 現代社会学科
教授	伊藤 聡	多文化理解部会；ヒューマニティーズ	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	陶山 二郎	社会と生活部会；社会	人文社会科学部 法律経済学科
教授	岡崎 正男	グローバル英語プログラム部会	人文社会科学部 人間文化学科
講師	篠田 明音	心と体の健康部会；身体	教育学部学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育教室
教授	谷川 佳幸	多文化理解部会；パフォーマンス&アート	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育教室
准教授	大塚 富美子	自然・環境・科学部会；自然	理工学研究科（理学野） 数学・ 情報数理領域

講師	横田 仁志	自然・環境・科学部会；科学	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域
教授	上妻 由章	自然・環境・科学部会；自然	農学部 食生命科学科
准教授	坂上 伸生	AIMS プログラム部会	農学部 食生命科学科
教授	安江 健	地域協創人材教育プログラム部会	社会連携センター/農学部 食生命科学科

○ 学生支援部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
准教授	小磯 重隆	教育社会学（キャリア教育），社会法学（労働法），社会学（職業能力開発）	90
講師	矢嶋 敬紘	社会福祉学，臨床心理学	93

○ 国際教育部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
教授	安 龍洙	日本語教育	95
教授	八若 壽美子	日本語教育	97
教授	池田 庸子	日本語教育	99
准教授	瀬尾 匡輝	日本語教育，外国語教育，教育社会学	101
講師	青木 香代子	教育学（多文化教育、異文化間教育、国際理解教育）	106
助教	塚田 純	政治コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア論	—

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
教授	村上 雄太郎	各学部との連絡調整、学部内での国際教育施策の立案や実施	理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
教授	湊 淳		理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
准教授	坂上 伸生		農学部 食生命科学科

③ 令和元年度における教員の活動

総合教育企画部門	氏名 鳥田 敏行
----------	----------

職名	准教授
学位	修士(理学)[金沢大学]
学歴	金沢大学 自然科学研究科 地球環境科学専攻 博士後期課程[2003年3月単位取得満期退学] 金沢大学 自然科学研究科 生命・地球学専攻 博士前期課程[1999年3月修了] 金沢大学 理学部 地学科[1997年3月卒業]
職歴	茨城大学 IT基盤センター 教育IT化推進部門(兼務)(2018年5月～) 茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 准教授(2016年8月～) 茨城大学 大学戦略・IR室 准教授(2015年4月～2016年7月) 茨城大学 大学戦略・IR室 助教(2014年10月～2015年3月) 茨城大学 助教評価室(2007年4月～2014年9月) 茨城大学 IT基盤センター ITシステム運用部門(兼務)(2005年7月～2018年4月) 茨城大学 助手評価室(2005年3月～2007年3月) 茨城大学 学術企画部 企画課 大学改革係(2004年4月～2005年2月) 茨城大学 水戸事業場衛生管理者(2004年4月～) 茨城大学 総務部 総務課 大学改革推進室 大学改革推進係(2003年4月～2004年3月) 防災科学技術研究所非常勤職員(文部科学省研究開発局防災科学技術推進室勤務)(2002年7月～2002年8月)
所属学会	日本地形学連合 大学評価コンソーシアム 日本高等教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	IT基盤センター 兼務
専門分野	環境動態解析 教育学
教育研究概要	大学運営支援のための情報収集、分析、活用的高度化を図るための機能(IR)を活用した継続的な教育改善の仕組み(内部質保証システム)構築の実践的研究を進めている。 (キーワード)大学評価 教学マネジメント

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [その他・共編者]大学評価コンソーシアム情報誌編集委員会「情報誌「大学評価とIR」第10号」, 大学評価コンソーシアム, 45. (2019年05月)</p> <p>○ 学会発表等</p> <p>1. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・単独・招待有] 鳥田 敏行「第1講:IRの現状と課題—何ができるのか・したいのか— 第2講:アセスメントの設計と運用—質保証の実践を支援する— 第3講:データ提供とBIツール</p>
--

- の活用－視覚的な情報共有の技法と活かし方－」[IR 担当教職員セミナー・中級編・名古屋大学高等教育研究センター・名古屋市](2019年10月)
2. [口頭発表(招待・特別)・単独・招待有] 畠田 敏行「湖沼堆積物からみる歴史時代の気候変動」[市民講演会「森林と湖沼に記録された過去の気候変動データを読み解く」・金沢大学環日本海域環境研究センター・金沢市](2019年10月)
3. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・単独・招待有] 畠田 敏行「エンロールメント・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか」[東北大学 教育関係共同利用拠点提供プログラム 教育マネジメント M-03・東北大学大学教育支援センター・仙台市](2019年9月)
4. [口頭発表(基調)・単独・招待有] 畠田 敏行「教育改善情報のロジスティクスを考える－大学教育の組織力を高めるための IR 機能とその実践－」[SPOD フォーラム 2019 シンポジウム「大学教育の組織力を高める」・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク・松山市](2019年8月)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 科学研究費補助金[分担] 基盤研究(C)R1～R3 年度「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する大学評価の可能性をめぐる実証的研究」(課題番号:19K02855、代表者: 大川一毅)
2. 科学研究費補助金[分担] 基盤研究(C)H30～R2 年度「大学の数量的な「共通知」から分析マインドを涵養する人材育成プラットフォームの開発」(課題番号:18K02706、代表者: 大野賢一)
3. 科学研究費補助金[分担] 基盤研究(C)H30～R2 年度「研究課題教学マネジメントを支援する大学の専門的職員のあり方に関する研究」(課題番号:18K02729、研究代表者: 小湊卓夫)

○ 学術貢献活動

1. 「AP 事業成果に基づく合同公開 FD 研修会 「教育の質保証のための実践事例セミナー」, 茨城大学・東日本国際大学[企画立案・運営等](東京 CIC)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学外委員等

1. 「大学評価コンソーシアム」副代表幹事(庶務担当)
2. 「(独)大学改革支援・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会内部質保証専門部会」専門委員

○ 学外教育

愛媛大学、東北大学、名古屋大学主催の IR 担当者向け研修の講師を担当

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 教務情報ポータルシステム専門委員会[副委員長]
2. 情報委員会
3. 情報環境整備専門委員会
4. 図書館本館図書委員会
5. 図書館運営委員会

6. 年俸制適用教員業績評価専門部会委員

7. 水戸事業場安全衛生委員会

8. 教育改革推進委員会[事務局]

○ 機構の業務等

1. 平成 28 年度大学教育再生加速プログラム(テーマ5:卒業時の質保証)関連業務

2. 点検評価委員会

3. 学術委員会

共通教育部門	氏名 小林 邦彦
--------	----------

職名	教授
学位	修士(教育学)[茨城大学]
学歴	茨城大学大学院 教育学研究科教科教育専攻 英語教育専修[1994年3月修了]
職歴	茨城大学 全学教育機構 教授(2019年4月～) 茨城大学 全学教育機構 准教授(2016年4月～2019年3月) 茨城大学 人文学部 准教授(2004年4月～2016年3月) 国立茨城工業高等専門学校 人文科学科 助教授(1998年4月～2004年3月)
所属学会	全国語学教育学会 全国英語教育学会 大学英語教育学会 関東甲信越英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	異文化間コミュニケーション理論を外国語教育の入門期から体系的に導入するための「異文化間コミュニケーション・シラバス」の設計及び教授法の研究。心理言語学的プロセスを価値哲学、論理学、様相論理学、発話行為理論から解明する。 (キーワード)価値哲学、様相論理学、発話行為理論、動機付け理論、タスク理論、学習ストラテジー、認知学習理論、異文化間コミュニケーション・シラバス設計

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Advanced English I A【前期】, Integrated English II A【前期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English I B【後期】, Integrated English II B【後期】, TOEIC & TOEFL【3Q】, TOEIC & TOEFL【4Q】
------	--

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]菊池武・小西康文・小林邦彦・福田浩子・上田敦子・大森真・館深雪・大津理香・鈴木聡子「2018年度 TOEIC テストと授業アンケートの関係」, 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究(茨城大学全学教育機構), 3, 127-138. (2020年03月)</p>

令和元年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 教育研究評議会</p>

2. 茨城大学組織評価委員会 組織評価実務担当者連絡会

3. 年俸制適用教員業績評価専門部会委員

4. 学長候補適任者意向聴取委員会

5. 評議員・大学教育領域長

6. 点検評価委員会

7. 人事委員会 委員長

○ 機構の業務等

1. 学長候補適任者聴取委員会委員

2. Practical English Advanced English I コースコーディネーター

3. 入試関係業務主任

4. 全学教育機構 点検評価委員会 委員

5. PE 部会長 補佐

6. 共通教育部門 部門長補佐

7. 全学教育機構 人事委員会 委員長

8. 年俸制教員業績評価専門部会

9. 組織評価実務担当者連絡会

10. 教員業績評価制度の検討に係るWG

11. 評議員

12. GEP 専門部会 部会長

共通教育部門	氏名 福田 浩子
--------	----------

職名	教授
学位	修士(国際コミュニケーション)[青山学院大学]
学歴	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 国際ビジネス専攻(国際コミュニケーション) 修士課程 [1996年修了] 慶應義塾大学 文学部[1978年卒業]
職歴	茨城大学全学教育機構(2017年4月～) 茨城大学人文学部(2013年10月～) 慶應義塾大学外国語教育センター(2007年10月～2011年3月) 茨城大学人文学部(2007年4月～2013年9月) 茨城大学人文学部(2002年4月～2007年3月) 武蔵野女子大学人間関係学部(2000年4月～2001年3月) 獨協大学外国語学部(1999年4月～2002年3月) 獨協大学オープン・カレッジ(1999年4月～2002年3月) 青山学院大学国際政治経済学部(1998年4月～2004年3月) 日本能率協会マネジメントセンター人事アセスメント研究所(1995年4月～2002年3月) 湘北短期大学(1990年4月～1999年3月)
所属学会	日本国際理解教育学会 日本言語政策学会 外国語教育学会 大学英語教育学会 異文化間教育学会 Association for Language Awareness 異文化コミュニケーション学会
受賞歴	平成14年度後学期茨城大学推奨授業表彰「英語ⅡTR」(2003年07月)
学内兼務	
専門分野	外国語教育 応用言語学 異文化コミュニケーション
教育研究概要	茨城大学総合英語プログラムの企画、開発を担当したことから、CEFRを参照した日本における英語教育のカリキュラム開発、特に到達目標の策定、Can-do statementsの開発、自律的学習のあり方などを研究してきた。また、Hawkinsらのイギリスの「言語への気づき」(Language Awareness)を踏まえた、日本の言語教育(母語・外国語教育)における言語への気づきをテーマとし、小学校の英語・国語教育・国際理解教育をつなぐものとしての言語意識教育、多言語多文化共生時代の言語教育について研究している。現在は、これを発展させ、多言語・多文化に開かれた言語教育のあり方、複言語・複文化主義に基づく言語教育について、主にスイスの先進的な取り組みを調査し、その理論と実践について研究している。 (研究経歴) 1995- 言語意識・言語への気づき(Language Awareness)の研究 2001～ 大学における教養英語教育 2001～ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠と日本における外国語教育

③ 令和元年度における教員の活動

	<p>2007～2009 言語意識教育：小学校からの英語・国語教育への提言(科研)</p> <p>2007～2009 英語教育におけるプログラム・デザインのモデル化：ヨーロッパ共通参照枠の応用(科研)</p> <p>2010～2011 グローバル時代の外国語教育－理念と現実／政策と教授法－(科研)</p> <p>2011～2013 多言語・多文化に開かれたリテラシー教育についての研究：日本の言語教育への提言(科研)</p> <p>2014～2017 多言語・多文化に開かれたリテラシー教育についての研究：初等教育と教員養成を中心に(科研)</p>
	<p>(キーワード)言語への気づき、言語意識教育、ELBE、EOLE、自律的学習、ヨーロッパ言語共通参照枠、ELP(European Language Portfolio)、複言語主義、複文化主義、大学教養英語教育、小学校の外国語活動、カリキュラム開発、CLIL、translanguaging</p>

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English I A【前期】, Integrated English I B【後期】, Advanced English I B【後期】, Integrated English I B【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	[その他特記]Integrated English I コース・コーディネータ(2018年4月～)

令和元年度における研究活動

<p>○ 学術貢献活動</p> <p>1. 「Journal CAJLE」, [審査・評価,査読]</p>

令和元年度における大学運営・機構運營業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 全学教育機構学生支援部門 障害学生修学支援員</p>
<p>○ 機構の業務等</p> <p>1. プラクティカル・イングリッシュ専門部会 FD 担当チーフ</p> <p>2. プラクティカル・イングリッシュ専門部会 学修支援・学修相談担当</p> <p>3. プラクティカル・イングリッシュ専門部会 IE I コース・コーディネータ</p> <p>4. プラクティカル・イングリッシュ専門部会 委員</p> <p>5. 科研申請助言者</p>

共通教育部門	氏名 金光男
--------	--------

職名	教授
学位	政治学修士[早稲田大学]
学歴	上智大学 外国語学研究科 国際関係論専攻 博士課程[1992年3月単位取得満期退学] 早稲田大学 政治学研究科 政治学 修士課程[1987年修了] 早稲田大学 社会科学部 社会科学科[1980年卒業]
職歴	早稲田大学アジア研究機構・客員研究員(2008年4月～2010年3月) オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ大学人文社会科学部客員研究員(2000年4月～2001年3月) 東京外国語大学外国語学部東南アジア課程非常勤講師(1997年4月～1999年3月) 茨城大学人文学部助教授(1994年4月～) 国立インドネシア大学政治社会学部国際関係学科客員講師(1993年2月～1994年2月) 早稲田大学社会科学研究所インドネシア部会研究協力者(1988年4月～1992年3月)
所属学会	韓日民族問題学会 アジア・ヨーロッパ未来学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	地域研究 東アジア国際関係史
教育研究概要	研究については、1859年開港から二次大戦終結までの日本近代化の歴史を石炭開発の中核の一つである労働形態を明確にする研究に取り組んでいる。その前半部は主として九州、北海道を事例とし、後半部は台湾、朝鮮、旧「満州」、中国大陸、スマトラにおける炭鉱開発と労働形態を明らかにしたい。 授業は、基盤教育科目の「グローバルスタディーズ」に区分される授業を担当している。人文社会科学部での授業、アジア社会論、アジア社会論演習および人文社会科学研究科での課題研究演習、アジア社会論研究、地域研究・社会学基盤演習を担当した。 (キーワード)石炭産業、近代化、アジア、インドネシア、朝鮮・韓国、日本、国際関係、地域研究

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)グローバル・スタディーズ【1Q】日本近代化とアジア, グローバル・スタディーズ【2Q】日本石炭産業とアジア, グローバル・スタディーズ【3Q】アジア学入門, グローバル・スタディーズ【4Q】東アジア概説 (専門科目)専門ゼミナールC(アジア社会論), 専門ゼミナールA(アジア社会論), 専門ゼミナールD(アジア社会論), 卒業研究 (大学院科目)アジア社会論研究Ⅱ, 課題研究演習Ⅰ, 地域研究・社会学基盤演習, 課題研究演習Ⅱ
------	---

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]金 光男「三池炭鉱における囚人労働に関する一考察」, 茨城大学全学教育機構論集(茨城大学全学教育機構), 3, 17-36. (2020年03月)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

1. 「みと好文カレッジ運営審議会委員」, 水戸市教育委員会

○ 学外委員等

1. 「アジア・ヨーロッパ未来学会」学会誌『ユーラシア研究』政治・外交分科編集委員

○ 学外教育

- 放送大学 2019年度第1学期面接授業「アジア社会論」

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会業務

1. 学長候補適任者意向聴取委員会
2. 人事委員会

○ 機構の業務等

- 「社会と生活部会」部会長

共通教育部門	氏名 Frederick Allan Shannon
--------	----------------------------

職名	准教授
学位	博士[クイーンズランド大学] 修士[サザン・クイーンズランド大学] 学部[サイモンフレーザー大学] ケンブリッジ大学 英語教授法資格[ケンブリッジ大学]
学歴	クイーンズランド大学 教育学部 教育 博士課程[2008年1月修了] サザン・クイーンズランド大学 教育学部 言語学 修士課程[2004年7月修了] サイモンフレーザー大学 犯罪学部 犯罪学部[1996年7月卒業]
職歴	九州大学(2010年10月～2012年3月)
所属学会	
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	応用言語学
教育研究概要	<p>(研究経歴) 私はこれまで数年間日本の大学レベルで外国語としての英語(EFL)を教えてまいりました。私の授業を通して学生たちが新しい言葉を学んだり、これまで知らなかったことを理解したりしてくれることに非常に喜びとやりがいを感じております。私は教員としてのキャリアの早期から、TESOLの学術分野と応用言語学について学び、教えることに魅力を感じてきました。また、学生たちの語学力を伸ばすために彼らをサポートできることに喜びを感じております。よりよい英語教師となることができるように、私はTESOL/応用言語学、教育学の分野で学位を取得しました。私は博士課程で英語専攻以外の学生を対象としたリスニング能力に重点を置いた語学教育について研究を行いました。応用言語学修士課程ではEFL学習者による言語習得方略の使用について研究しました。また、ケンブリッジのCELTA(Certificate of English Language Teaching to Adults)も取得しております。私は自分のキャリアを開発する決意をして、語学教育に関するスキルと知識の向上に努めてまいりました。日本で教える外国人教師の中でも英語教育の博士号を保持している人は非常に限られており、TESOL分野における私の学術的背景によって、大学の課程に積極的な貢献ができると信じております。さらに、私は大学レベルでの豊富な指導経験があります。学部および大学院の英語専攻と非英語専攻の学生たちに対して英語関連の指導を行ってまいりました。これまでに教えたことのあるコースとしては、(1) プレゼンテーションスキル、(2) アカデミックライティング、(3) TOEIC、(4) TEOFL、(5) リスニングスキル、(6) ショートフィクション(詩および短編小説)、(7) 4 スキル会話クラスなどがあります。加えて、大学のほか、短期大学、高等学校、民間の語学学校、企業(NEC、トヨタ、マイクロソフトなど)での指導経験も豊富です。また、学部教員陣容の一員として、研究および学術活動にも参加してまいりました。これまでの大学および学科では広報活動にも積極的に参加し、たとえば学生やスタッフが彼らの英語を練習し、フィードバックを得る機会である「English Corner」というミーティングを毎週開催したり、大学院生向けに「Writing Clinic」を毎週行い、ライティングの支援をしたりした経験があります。また、大学の体育祭やスピーチコンテスト、寸劇コンテストなどにも参加しました。また、通常の職員会議等にも出席し、英</p>

③ 令和元年度における教員の活動

	<p>語専攻以外の学生向けのカリキュラム開発や教材の選択なども行いました。そして、大学の入試関係業務支援も行ってきました。私は日本語で学生やスタッフとコミュニケーションをとったり、一般的な業務を行ったりすることができます。このような理由から、私は大学での英語教員の職に適していると信じております。</p>
	<p>(キーワード)ナチュラルアプローチ, クラッシュェン, SLA モデル, 情意フィルター, インタラクション仮説, インプット仮説, 生得理論, 言語習得装置, モニターモデル, ナチュラルアプローチ, 相互交流仮説, インプット仮説, 生得理論, 意味交渉, 最近接発達の領域 (ZPD)</p>

令和元年度における教育活動

<p>担当科目</p>	<p>(教養科目)Advanced English ⅢA【前期】, Integrated English ⅡA【前期】, Advanced English ⅢC【前期】, English for Socializing【1Q】, Advanced English ⅢB【後期】, Integrated English ⅡB【後期】</p> <p>(専門科目)English Seminar for Intercultural Communication I, 専門演習Ⅲ(Language Learning), 専門演習Ⅳ(Language Learning), 卒業研究</p>
-------------	--

令和元年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 入試関係業務</p>

共通教育部門	氏名 小西 康文
--------	----------

職名	准教授
学位	博士(物理学)[京都産業大学]
学歴	京都産業大学 理学研究科 物理学専攻 博士後期課程[2010年3月修了]
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授(2018年2月～) 茨城大学 大学教育センター 准教授(2015年2月～2018年1月) 埼玉大学大学院 理工学研究科 研究支援者(2011年4月～2015年1月) 京都産業大学 益川塾 自然科学系研究員(2010年4月～2011年3月)
所属学会	日本物理学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	大学初年次の物理や数学、データサイエンス関係の教育をおこなっている。また、素粒子物理学における標準理論を超えた物理として、フレーバー領域を中心に研究をおこなっている。 (キーワード) 素粒子、現象論、標準理論を超えた物理

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)力と運動【前期】、微積分学【前期】、微積分学入門【1Q】、微積分学基礎【2Q】、物質と生命【3Q】素粒子物理学における現象論Ⅰ、技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門、物質と生命【4Q】素粒子物理学における現象論Ⅱ、技術と社会【4Q】AI・データサイエンス入門
学生支援・国際交流	科学の基礎質問室相談員
支援・特記事項	iOP チュートリアル(2019年10月～2019年11月)

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等	<ol style="list-style-type: none"> 1. [(MISC)速報, 短報, 研究ノート等(大学, 研究機関紀要)共著]「2018年度 TOEIC スコアと授業アンケートの関係」, 茨城大学全学教育機構論集, . (2020年03月) 2. [(MISC)速報, 短報, 研究ノート等(大学, 研究機関紀要)共著]小西 康文「小学校・中学校理科の学習内容に関する分析」, 東京懇談会 研究紀要, 2, 16-109,111. (2019年11月)
----------	---

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会業務

1. 点検評価委員会

○ 機構の業務等

1. 教育改革推進委員会において主催するFDでの成果報告
2. 2019年度研究推進経費「Research Booster」の審査委員
3. プラクティカル・イングリッシュのクラス分け補助 名簿および一覧表の作成
4. 微積分学の統一授業の運営等 取りまとめ
5. 自然・環境・科学部会のFDの準備と実施 日程調整、司会進行など
6. TOEIC 一斉テストに関する業務 集計および解析

共通教育部門	氏名 菊池 武
--------	---------

職名	准教授
学位	英語教授法修士[コロンビア大学大学院ティーチャーズカレッジ]
学歴	コロンビア大学 ティーチャーズカレッジ 英語教授法修士課程 修士課程[2003年2月卒業] 立教大学 文学部 英米文学科[1984年3月卒業]
職歴	いわき明星大学 人文学部(2011年4月～2015年3月) 教養学部(2015年4月～2018年3月) 准教授(2011年4月～2018年3月) 獨協大学 外国語学部英語学科(2007年4月～2008年3月) 法学部総合政策学科(2008年4月～2011年3月) 特任講師(2007年4月～2011年3月) 獨協大学(2006年4月～2007年3月) いわき明星大学(2003年10月～2011年3月) 茨城大学(2003年4月～2011年3月) 茨城県教育委員会(1984年4月～2003年3月)
所属学会	大学英語教育学会 全国語学教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード)英語教育、第二言語習得研究、発音指導

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】, Integrated English II B【後期】
------	---

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【筆頭著者】]菊池 武、小西 康文、小林 邦彦、上田 敦子、大森 真、館深雪、大山 簾、大津 理香、鈴木 聡子「2018年度 TOEIC テストと授業アンケートの関係」, 茨城大学 全学教育機構論集 大学教育研究, 3, 127-137. (2020年03月)</p> <p>2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]「大学入学前の英語の発音指導の変化」, 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究, 3, 109-125. (2020年03月)</p>

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 入試関係業務
2. 学術委員会

○ 機構の業務等

1. プラクティカル・イングリッシュ部 部会長
2. 全学教育機構 学術委員会 委員

共通教育部門	氏名 SCHMIDT=FAJLIK Ronald
--------	--------------------------

職名	准教授
学位	D.Ed.[University of South Africa] M.Ed.[University of Manchester] B.Ed.[University of Toronto] B.F.A.[York University (Toronto)]
学歴	University of South Africa Didactics 博士課程[2014年10月] University of Manchester English Language Teaching Master of Education in English Language Teaching (M.Ed. ELT). 修士課程[2000年修了] University of Toronto 教育学部[1993年卒業] York University 芸術工学部[1991年卒業] Humber College Audio-Visual Production, Television[1986年卒業]
職歴	
所属学会	
受賞歴	Best Presentation of Chiba JALT 2003(2004年)
学内兼務	
専門分野	
教育研究概要	(研究経歴) I am currently conducting research in the following areas: Nonverbal communication. Interpersonal competence. Combining second language education with visual art. Intercultural communication Interpersonal competence Multiple intelligences theory in second language education. Space in visual art. Nonverbal communication. Interpersonal competence. (キーワード) 異文化コミュニケーション 個人教育 視覚文化 コンピュータ支援型言語学習 英語教育

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Advanced English ⅢC【前期】, Integrated English ⅢA【前期】, Advanced English ⅢC【前期】, Integrated English ⅢB【後期】, Academic Writing【3Q】 (専門科目)英語圏の文化と社会 I / 英語圏の文化と社会, 専門演習Ⅲ(Language Learning), English Seminar for Intercultural Communication Ⅱ, 専門演習Ⅱ(Language Learning), 専門演習Ⅳ(Language Learning), 卒業研究
------	--

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等	1. [単行本(学術書)・単著]Ronald Schmidt-Fajlik“Interpersonal Competence in English Language Teaching”, . (2020年03月)
----------	--

③ 令和元年度における教員の活動

2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著] Ronald Schmidt-Fajlik “Extensive Reading Anxiety of Japanese University Students”, 3, 57-67. (2020年03月)

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 入試関係業務

共通教育部門	氏名 清水 恵美子
--------	-----------

職名	准教授
学位	博士(学術)[お茶の水女子大学] 修士(学術)[茨城大学]
学歴	お茶の水女子大学 人間文化研究科 国際日本学専攻 博士後期課程[2008年修了] 茨城大学 人文科学研究科 文化構造専攻 修士課程[2003年修了]
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授(2018年4月～) 茨城大学 五浦美術文化研究所 所員(2015年11月～) 茨城大学 社会連携センター 准教授(2015年2月～2018年3月) お茶の水女子大学 生活科学部 学部教育研究協力員(2013年～2015年) お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション 特任リサーチフェロー(2011年～2012年) 国土館大学 文学部 非常勤講師(2010年～2015年) 芝浦工業大学 工学部 非常勤講師(2010年～2015年) お茶の水女子大学 生活科学部 非常勤講師(2010年～2015年) お茶の水女子大学 比較日本学教育研究センター 客員研究員(2009年～) お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科研究院 研究員(2008年～2011年) 茨城大学 人文学部・大学共通センター 非常勤講師(2006年～2015年)
所属学会	日本フェノロサ学会 文化資源学会 日本比較文学会 明治維新史学会 明治美術学会
受賞歴	いばらきデザインセレクション 2017 知事選定「五浦コーヒーを媒介とした岡倉天心・五浦発信」(2017年11月) 文化庁 平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(評論等部門)(2013年)
学内兼務	五浦美術文化研究所 運営委員茨城大学 茨城 COC プラス教育プログラム開発委員会 委員
専門分野	美術史 文学一般(比較文学比較文化) 日本史(近現代史)
教育研究概要	岡倉天心に関する研究 日本美術院、岡倉由三郎、柳宗悦、飯村丈三郎、新納忠之助に関する研究 日米印の美術交流に関する研究 地域志向教育に関する研究 岡倉天心の思想と生涯の活動について、晩年の五浦・ボストン往復時代を中心に、美術史、芸術思想史、比較文学比較文化、文化交流史、近代日本史など多角的な領域から研究 「茨城学」「5学部混合地域 PBL I」「5学部混合地域 PBL II」を担当 (キーワード)岡倉天心(覚三) 近代美術史 比較文学比較文化 文化交流史 芸術思想史 地域志向教育 アクティブ・ラーニング PBL

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)茨城学【3Q 部分】
------	------------------

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [(MISC)総説・解説(その他)単著【依頼/招待】]清水恵美子「赤倉山荘「亜細亜ハーナリ」をめぐる謎」, 江戸千家便覧 ひととき草(江戸千家連合不白会), 135, 32-33. (2020年01月)
2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]清水恵美子「20世紀初頭の美術交流における新納忠之介の活動—ポストン美術館関係者との交流を中心に—」, 五浦論叢: 茨城大学五浦美術文化研究所紀要(茨城大学五浦美術文化研究所), 26, 63-80. (2019年11月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(招待・特別)・単独・招待有]「「岡倉天心と五浦の六角堂」」[茨城大学連携講演会・阿見町生涯学習課・阿見町立中央公民館](2019年6月)
2. [口頭発表(一般)・単独・招待有] 清水恵美子「「20世紀初頭の美術交流における新納忠之介の活動」」[日本比較文学会東京支部例会・日本比較文学会東京支部・二松学舎大学](2019年4月)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 科学研究費補助金(基盤研究(C))「「世紀転換期から戦後の美術交流における新納忠之介の文化財保護活動に関する研究」」(研究代表者)日本学術振興会日本学術振興会日本学術振興会(2018年度～2020年度)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

- 1[講演会:講師].「茨城大学連携講演会「岡倉天心と五浦の六角堂」」, 阿見町生涯学習課(社会人・一般)
- 2[対話型集会・市民会議:司会].「ひたちなか市産業活性化戦略会議 委員長」, ひたちなか商工会議所(社会人・一般, 企業, 行政機関)

○ 学外委員等

1. 「ひたちなか市産業活性化戦略会議」委員長

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. COC 統括委員会委員
2. 茨城大学地元就職推進委員会
3. 茨城大学五浦美術文化研究所運営委員会
4. 茨城大学五浦美術文化研究所所員

○ 機構の業務等

1. COC 統括機構(COC プラス) COC 統括委員会委員、教育プログラム開発委員会委員、COC プラス授業推進 WG
2. 全学教育機構 共通教育部会 地域志向教育プログラム部会長(2019年3月まで COC 地域志向教育プログラム部会長)初年次教育部会(2019年3月まで)
3. 五浦美術文化研究所 所員、運営委員(2018年4月～)

4. COC 統括機構(COC) COC 統括委員会委員、COC 地域志向教育プログラム委員会委員長(2017年4月～2019年3月)

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 佐藤 伸也
--------	----------

職名	准教授
学位	DOCTOR of PHILOSOPHY[サセックス大学]
学歴	サセックス大学 エンジニアリング・インフォマティクス研究科 インフォマティクス専攻 博士課程[2015年5月修了] 東京理科大学 理工学研究科 情報科学専攻 博士課程[2002年3月単位取得満期退学] 東京理科大学 理工学研究科 情報科学専攻 修士課程[1998年3月修了] 東京理科大学 理工学部 情報科学科[1996年3月卒業]
職歴	茨城大学 全学教育機構 准教授(2017年4月～) 茨城大学 大学教育センター 准教授(2015年9月～2017年3月) サセックス大学 エンジニアリング・インフォマティクス研究科、インフォマティクス専攻 准チューター(2014年2月～2014年4月) 姫路獨協大学 経済情報学部 准教授(法改正による職名変更)(2007年4月～2012年3月) 姫路獨協大学大学院 経済情報研究科 准教授(法改正による職名変更)(2007年4月～2012年3月) ロンドン大学キングスカレッジ コンピュータサイエンス学部 客員研究員(2006年9月～2007年8月) 姫路獨協大学大学院 経済情報研究科 助教授(2005年4月～2007年3月) 姫路獨協大学 経済情報学部 助教授(2004年4月～2007年3月) 姫路獨協大学 経済情報学部 専任講師(2002年4月～2004年3月)
所属学会	Association for Computing Machinery
受賞歴	なし
学内兼務	IT 基盤センター 教育 IT 化推進部門 部門長
専門分野	情報学基礎理論 計算機システム ソフトウェア
教育研究概要	(キーワード)インタラクシオンネット プログラミング言語 形式手法 項(グラフ)書き換え系

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)情報リテラシー【前期】、環境と人間【1Q】計算機科学への招待Ⅱ、技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門、環境と人間【4Q】計算機科学への招待、技術と社会【4Q】AI・データサイエンス入門、技術と社会【4Q】AI・データサイエンス基礎演習
------	---

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等	1. 佐藤伸也「学びへの動機付けと意欲向上への取り組み—リベラルアーツ理工系選択科目「計算機科学への招待」を
----------	--

対象として—」[茨城大学全学教育機構論集, 大学教育研究, 茨城大学全学教育機構, pp. 139—153](2019年3月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・共同] 卯木輝彦, 加藤利康, 佐藤伸也, 堤宇一, 児玉靖司「オープンデータを活用した学習分析研究者のためのディープラーニングセミナー:学習分析学会における取り組み」[第44回 教育システム情報学会全国大会・教育システム情報学会・静岡大学 浜松キャンパス](2019年9月)

○ 学術貢献活動

1. 卯木輝彦(株式会社フォトロン 研究開発センター長)、加藤 利康(日本工業大学 講師)、佐藤伸也、セミナー「2日間で学ぶディープラーニングによる時系列データ解析入門」、学習分析学会、2019年12月21日～22日

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 教務情報ポータルシステム専門委員会
2. 情報環境整備専門委員会
3. IT基盤センター運営委員会委員
4. 予算・施設委員会

○ 機構の業務等

1. 共通教育部門初年次教育(情報)
2. 総合教育企画部門(兼務)
3. 部局技術責任者
4. AI・数理データサイエンス教育検討タスクフォース委員
5. 基盤・教養科目事前申告抽選プログラム作成
6. 英語コミュニケーショントレーニング予約サイトの作成・管理・運用
7. ALC NetAcademyNext 用サーバー管理
8. 情報リテラシー相談室の実施
9. 情報リテラシーFDの実施

共通教育部門	氏名 上田 敦子
--------	----------

職名	准教授
学位	修士(国際コミュニケーション)[青山学院大学]
学歴	青山学院大学 国際政治経済学研究科 国際コミュニケーション 修士課程[2001年修了] 青山学院大学 文学部 英米文学科[1985年卒業]
職歴	(株)公文教育研究会(1985年04月～1997年03月)
所属学会	アジア英語教育学会 全国語学教育学会
受賞歴	茨城大学推奨授業「平成15年度英語Ⅰ」(2005年03月)
学内兼務	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード)多読 multiple intelligences 多聴(シャドーイング)

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II B【後期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】, Integrated English II B【後期】
学生支援・国際交流 支援・特記事項	テーブルマジックサークル「アンビシャス」顧問

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著] 菊池 武・小西 康文・小林 邦彦・上田 敦子・大森 真・館 深雪・大山 廉・大津 理香・鈴木 聡子「2018年度 TOEIC スコアと授業アンケートの関係」, 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究(2020)(茨城大学全学教育機構), 第 3, 127-137. (2020年03月)</p> <p>2. [研究論文(学術雑誌)共著] 大森 真・上田 敦子・矢嶋 敬紘・佐々木 友美・館 深雪「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み(1): パフォーマンス評価におけるルーブリックの開発・導入と学習者の意識への影響」, 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究(茨城大学全学教育機構), 3. (2020年03月)</p> <p>○ 学会発表等</p> <p>1. [ポスター発表・共同] Sachiyo Nomura, Atsuko Ueda "Effects of Collaborative Learning on English Education: Focusing on Incidental Vocabulary Learning" [Asia TEFL 2019・Asia TEFL・Ambassador Hotel, Bangkok, Thailand] (2019年6月)</p>
--

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

1. 「公開講座 多読を楽しむ」,
2. 「放送大学英会話サークル 指導」,(社会人・一般)

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

→ 施設予算委員

○ 機構の業務等

1. PE Advanced English II コーディネータ
2. PE クラス編成委員長
3. PE 教育支援委員

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 山崎 大
--------	---------

職名	准教授
学位	博士(理学)[東京大学] 修士(理学)[東京大学]
学歴	東京大学 理学系研究科 天文学専攻 博士課程[2007年3月修了]
職歴	<p>2004年4月～2006年3月 国立天文台リサーチ・アシスタント</p> <p>2006年4月～2007年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2)</p> <p>2007年4月～2008年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)</p> <p>2008年4月～2009年3月 国立天文台研究支援員</p> <p>2009年4月～2011年3月 Postdoctoral Fellow, Academia Sinica, Institute of Astronomy and Astrophysics (Republic of China)</p> <p>2011年4月～2014年3月 国立天文台研究員</p> <p>2014年4月～2015年2月 千葉工業大学学習支援センター学習支援員(専任講師相当)</p> <p>2014年4月～現在に至る 国立天文台特別客員研究員</p> <p>2015年2月～2017年3月 茨城大学 大学教育センター 准教授</p> <p>2017年4月～現在に至る 茨城大学 全学教育機構 准教授(所属部署の名称変更)</p>
所属学会	Japan SKA Consortium 日本天文学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	天文学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	<p>1.「研究」</p> <p>初期宇宙の物理過程に対する原初磁場の影響を研究。特に、相対論的宇宙論と電磁流体力学に対応した、原初磁場の空間分布を数値的に計算するプログラムを開発し、統計的な手法を駆使し、宇宙背景放射と物質密度場に対する原初磁場の影響に関する研究の発展に貢献してきた。最近、観測事実をもとに理論モデルを検証する観測的宇宙論の手法により、原初磁場を考慮したビッグバン元素合成やダークマター候補となるX粒子探索等の素粒子論・原子核理論に関連する研究も行っている</p> <p>2.「教育」</p> <p>物理学と数学の授業について、その成績と授業出席について統計的に調査し、その結果を反映した基礎教育改善のための授業計画の立案、教材・板書ノート・教科書作成、および試験問題作成を行う。また、学習相談の専用窓口で、多くの学生の学習相談に対応しつつ、より多くの学生が気兼ねなく学習相談できる環境の改善を推進してきた。</p> <p>(キーワード)宇宙論 宇宙背景放射 原初磁場 大規模構造形成 ビッグバン元素合成</p>

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)微積分学【前期】、力学入門【1Q】、力学基礎【2Q】、力と運動【後期】、物質と生命【3Q】 宇宙論史 I、技術と社会【3Q】AI・データサイエンス入門、物質と生命【4Q】宇宙論史 II、技術と社会 【4Q】AI・データサイエンス入門
学生支援・国際 交流支援・特記 事項	[その他特記]VCS を活用したパイロット授業の実施(2019 年 12 月～2020 年 2 月) [その他特記]科学の基礎質問室(2017 年 4 月～)

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(国際会議プロシーディングス)共著【査読あり】]Mathews, G. J.; Kedia, A.; Sasankan, N.; Kusakabe, M.; Luo, Y.; Kajino, T.; Yamazaki, D. G.; Makki, T.; El Eid, M. "Cosmological Solutions to the Lithium Problem", JPS Conf. Proc., 31, 011033. (2020 年 03 月)</p> <p>○ 学会発表等</p> <p>1. [口頭発表(一般)・単独] 山崎 大「宇宙論における磁場の制限」[日本 SKA サイエンス会議「宇宙磁場」2019] (2019 年 11 月)</p> <p>2. [ポスター発表・単独] 「原初磁場と有質量ニュートリノの弱重力レンズ効果に対する影響の考察」[日本天文学会 2019 年秋季年会] (2019 年 9 月)</p>
--

令和元年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 共通教育部門会議 自然・環境・科学部会 部会長</p> <p>2. 学術委員会 委員</p> <p>3. 全学教育機構 AI・数理・データサイエンス検討TF 委員</p> <p>○ 機構の業務等</p> <p>1. 平成 30 年度 後期, 平成 31 年(令和元年)度 前期 科学の基礎および自然環境と人間 FD</p> <p>2. 平成 31 年(令和元年)度 茨城大学全学教育機構論集 編集者</p> <p>3. 平成 31 年(令和元年)度 科学の基礎・自然環境と人間科目のシラバスチェック</p> <p>4. 平成 30 年度 茨城大学全学教育機構論集 編集者</p> <p>5. 茨城大学数理解析への「微分積分の基礎」編集委員会 委員</p> <p>6. 茨城大学 力学教科書編集委員会 委員長</p> <p>7. 統一授業「微積分学」運営業務</p> <p>8. 統一授業「力と運動」運営業務</p> <p>9. 微分積分の基礎テスト作成協力</p> <p>10. 力学の基礎テスト作成・採点・クラス分け</p> <p>○ その他</p> <p>1. 入試関係業務</p>

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 大森 真
--------	---------

職名	講師
学位	第二言語研究 修士[ハワイ大学 マノア校]
学歴	ハワイ大学 マノア校 第二言語研究学科 第二言語研究 修士課程[2006年12月修了] ハワイ大学 マノア校 第二言語研究学科 第二言語研究 博士課程[その他]
職歴	<p>国立大学法人 茨城大学 全学教育機構 英語専任講師(常勤)(2017年4月～)</p> <p>国立大学法人 茨城大学 大学教育センター 英語専任講師(常勤)(2014年4月～2017年3月)</p> <p>非営利団体 アジア太平洋交流センター(Center for Asia Pacific Exchange; ハワイ大学と提携し、ハワイ州政府に帰属する教育系非営利団体) 講師兼カリキュラム専門家(2011年6月～2012年8月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 第二言語研究学科 非常勤講師 [担当講座] 第二言語習得論 第二言語教授法 第二言語教授法—読解と作文 第二言語教授法—聴解と会話(2007年8月～2012年5月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 English Language Institute リスニング・スピーキングセクション主任講師(Lead Teacher)(非常勤)(2007年1月～2007年5月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 English Language Institute 非常勤講師 リスニング・スピーキングセクション(中級・上級)担当(学部生・大学院生対象)(2006年1月～2006年12月)</p>
所属学会	一般社団法人 大学英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	英語教育
教育研究概要	<p>[教育]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「TOEIC 企画運営」[運営委員長] 2. 「IE III コーディネーター」 3. 「英語学習相談」 4. 「入試採点」[教育研究プロジェクト] 共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み: パフォーマンス評価におけるルーブリック開発 自身がカリキュラム作成・運営し、且つ授業を担当している Integrated English III において、プレゼンテーションとエッセイの詳細なルーブリックの開発と学生への公表による学修への意識の変化を調査してきた。プロジェクトリーダーとして、全学教育機構学生支援部門矢嶋教員、共通教育部門上田教員、佐々木教員、館教員と共同研究を進めてきた。 <p>[研究プロジェクト]</p> <p>英会話交流授業の会話分析 「生徒達の英語に上積みするのを助ける」ことを目的とした英会話交流プログラムを会話分析の手法を用いて分析する。</p> <p>(キーワード)(応用)会話分析、 成員性カテゴリー化分析、異文化間性の構築、英語教授法、ルーブリック</p>

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English ⅢA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】, Integrated English ⅢA【前期】, Advanced English ⅢA【前期】, Integrated English ⅢB【後期】, Advanced English ⅢB【後期】, Integrated English ⅢB【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	[その他特記]IE Ⅲ プレゼンテーションとエッセイのガイドライン並びにルーブリックの作成(2017年4月～)

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【筆頭著者】]大森真・上田敦子・矢嶋敬紘・佐々木友美・館深雪「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み(1): パフォーマンス評価におけるルーブリックの開発・導入と学習者の意識への影響」, 茨城大学全学教育機構論集「大学教育研究」第3号, . (2020年03月)</p> <p>2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]「2018年度 TOEIC スコアと授業アンケートの関係」, 茨城大学全学教育機構論集「大学教育研究」第3号, . (2020年03月)</p>

令和元年度における大学運営・機構運營業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 入試関係業務</p>
--

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 鈴木 聡子
--------	----------

職名	講師
学位	博士[Temple University, Japan Campus] 修士[Temple University, Japan Campus]
学歴	Temple University, Japan Campus 教育学英語教授法博士課程[2017年5月修了]
職歴	青山学院大学非常勤講師(2017年4月～2018年3月) 文教大学非常勤講師(2017年4月～2018年3月) 日本大学非常勤講師(2017年4月～2018年3月) 文教大学非常勤講師(2009年4月～2016年3月) テンプル大学ジャパンキャンパス生涯教育プログラム非常勤講師(2009年9月～2011年4月) 青山学院大学非常勤講師(2007年4月～2016年3月)
所属学会	全国英語教育学会 外国語教育メディア学会(LET)
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード) Global Englishes、発音、音読、シャドーイング、リスニング、スピーキング、タスク、自律学習

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Advanced English III A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】, Advanced English III B【後期】
学生支援・国際交流 支援・特記事項	英語学習相談室(2018年度)

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著] "Incidental Aural Vocabulary Acquisition Through Computer-assisted Extensive Listening", 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究, 3, 37-45. (2020年03月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・共同] Yo Hamada & Satoko Suzuki "Shadowing as a Practice for Speech Perception" [International Symposium on the Acquisition of Second Language Speech (New Sounds) 2019] (2019年8月)
2. [口頭発表(一般)・単独] "Incidental Vocabulary Acquisition through Computer-Assisted Extensive Listening" [International Conference on Foreign Language Education & Technology (FLEAT) VII] (2019年8月)

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 館 深雪
--------	---------

職名	講師
学位	アーツ・サイエンス研究科修士課程心理教育学専攻言語教育修士[国際基督教大学] 教育学研究科修士課程心理教育学修士[ボブ・ジョーンズ大学大学院] 教育学部英語教育学科学士[ボブ・ジョーンズ大学]
学歴	国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科修士課程 心理教育学専攻言語教育 修士課程[2015年3月修了] ボブ・ジョーンズ大学大学院 カウンセリング科 修士課程[2000年5月修了] ボブ・ジョーンズ大学 教育学部 英語教育学科[1998年5月卒業]
職歴	茨城大学 全学教育機構(2015年2月～) 株式会社ゼウス・エンタープライズ バイリンガル・コーディネーター課 課長(2008年9月～2013年3月) Calvary Christian Academy(北マリアナ諸島サイパン島)(2000年8月～2007年7月)
所属学会	
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	言語教育、英語教育、TESL
教育研究概要	コミュニケティブ コンペテンスに対するコミュニケーション意欲の影響を調査し、大学英語教育及び企業英語使用現場にて取り入れるための方法における研究 (キーワード)コミュニケティブ コンペテンス、コミュニケーション意欲、企業英語

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]大森 真、上田 敦子、矢嶋 敬紘、佐々木 友美、館 深雪「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み(1):パフォーマンス評価におけるルーブリックの開発・導入と学習者の意識への影響」, 茨城大学全学教育機構論集, . (2020年03月)</p> <p>2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]菊池 武、小西 康文、福田 浩子、小林 邦彦、上田 敦子、館 深雪、大森 真、大山 廉、大津 理香、鈴木 聡子「TOEICの得点分析から得られる英語プログラムへの教育的示唆」, 茨城大学全学教育機構論集(茨城大学全学教育機構), . (2020年03月)</p>
--

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

<p>○ 社会貢献活動</p> <p>1. 「県高等学校教育研究会英語部英語スピーチコンテスト審査員」</p>

2. 「学長杯英語スピーチコンテスト審査員」

3. 「学長杯英語スピーチコンテスト審査員」

○ 学外教育

1. [非常勤講師]「身近な話題で英語を使ってみよう」

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 機構の業務等

1. 全学教育機構予算・施設委員

2. PE 英語学修支援委員長

3. PE TOEIC 企画副委員長

4. GEP 部会員

5. Practical English 部会員

6. PE Advanced English コーディネーター

③ 令和元年度における教員の活動

共通教育部門	氏名 大津 理香
--------	----------

職名	講師
学位	Master of Science in TESOL[California State University, Fullerton] 文芸学修士[共立女子大学]
学歴	共立女子大学大学院文芸学研究科 1998/03/31 修了 California State University, Fullerton, Humanities and Social Sciences 2011/05/27 修了
職歴	常磐大学国際学部助教 2013/04/01-2015/03/31 いわき明星大学(現医療創生大学)教養学部准教授 2015/04/01-2018/03/31
所属学会	日本英語教育英学会 The Japan Association for Language Teaching (JALT) Teachers of Speakers of Other Languages (TESOL)
受賞歴	なし
学内兼務	なし
専門分野	英語教育
教育研究概要	<p>・英語学習者の「やる気」「学習時間」「学びやすい環境」を大事に授業内外で教育支援を実施。</p> <p>・英語学習者の英語力向上のために、1)授業中の活動を教師だけではなく学生同士で評価することの効果、2)英語再履修者の削減、3)学生による英語絵本の読み聞かせが学生自身に与える影響、4)短期語学留学の効果、についての研究をこれまで実施。</p> <p>(キーワード) 動機付け、ピアレビュー、英語絵本、短期語学留学</p>

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Integrated English II A【前期】, Advanced English III C【前期】, Advanced English II A【前期】, Advanced English III A【前期】, Advanced English III C【前期】, Advanced English III C【前期】「農学部開講」, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】, Advanced English II B【後期】
------	---

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]菊池 武・小西 康文・小林 邦彦・上田 敦子・大森 真・館 深雪・大山 廉・大津 理香・鈴木 聡子「2018 年度 TOEIC スコアと授業アンケートの関係」, 茨城大学 全学教育機構論集, 第3, 127-137. (2020 年 03 月)</p> <p>2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]大津理香「英語絵本の読み聞かせ活動—読み聞かせる側である大学生への影響—」, 茨城大学 全学教育機構論集, 第 3, 79-93. (2020 年 03 月)</p>
--

共通教育部門	氏名 大山 廉
--------	---------

職名	助教
学位	文学博士[東北学院大学大学院] 文学修士[東北学院大学大学院]
学歴	東北学院大学大学院 文学研究科 英語英文学専攻 応用言語学・英語教育学専修 博士後期課程 [2020年3月修了] 東北学院大学大学院 文学研究科 英語英文学専攻 応用言語学・英語教育学専修 博士前期課程 [2015年3月修了] 東北学院大学 文学部 英文学科[2013年3月卒業]
職歴	茨城大学 全学教育機構 助教(2019年4月～) 東北学院大学(2018年4月～2019年3月) 山形県立新庄北高等学校(2015年4月～2016年3月) 東北学院榴ヶ岡高等学校(2014年4月～2019年3月)
所属学会	日本第二言語習得学会 大学英語教育学会 Asia TEFL 東北英語教育学会 全国英語教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード)教室における第二言語習得, 英語教育学

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)Integrated English II A【前期】, Advanced English II A【前期】, Advanced English III A【前期】, Integrated English II B【後期】, Advanced English II B【後期】
------	--

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [学位論文(博士)単著【査読あり・筆頭著者】]Ren Oyama“<i>The Effects of Affective Processing on Second Language Development</i>”, Ph.D. Dissertation, . (2020年03月)</p>

令和元年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 委員会業務</p> <p>1. 入試関係業務</p>

③ 令和元年度における教員の活動

学生支援部門	氏名 小磯 重隆
--------	----------

職名	准教授
学位	修士(法学)[筑波大学]
学歴	金沢大学 社会環境科学研究科 博士後期課程[2004年10月中退]
職歴	JUKI株式会社 工業用マシン事業部縫製能率研究所(1987.4~1999.3) 雇用促進事業団(独立行政法人雇用・能力開発機構)(1999.4~2004.10) 国立大学法人弘前大学 教育推進機構キャリアセンター准教授(2004.11~2016.6) 国立大学法人茨城大学 全学教育機構キャリアセンター准教授(2016.7~現在)
所属学会	日本キャリア教育学会 日本産業教育学会 日本労働法学会 日本キャリアデザイン学会
受賞歴	日本学術振興会「科研費」審査委員 表彰(2016年)
学内兼務	
専門分野	社会法学(労働法) 社会学(職業能力開発) 教育社会学(キャリア教育)
教育研究概要	<p>【教育研究活動状況】</p> <p>キャリア教育を中心に労働法及びアクティブラーニングの観点から若年者雇用問題を研究している。「多人数アクティブラーニング実践モデルの研究」では、固定式の机とイスで実践可能なキャリア教育を研究している。「若年者の職場定着に関する研究～職業教育を通じて」では、若者が「仕事を楽しめる能力」を身に付ける研究を行った。他に、地方創生(COCプラス)、男女共同参画推進の活動も行っている。「大学に求められるキャリア教育とは何か」弘前大学 21世紀教育センター、「地方創生と学生の地元就職」弘前大学教養教育実践開発センター、「女性の活躍に関する調査研究」青森県委託共同調査分析など。</p> <p>(キーワード)キャリア教育、労働法、職業能力開発、男女共同参画、地方創生</p>

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)ライフデザイン【前期】社会と私(P1)/ライフデザイン【前期】社会と私(P2), ライフデザイン【前期】社会と私(A), ライフデザイン【前期】社会と私, ライフデザイン【1Q】社会と私(T1), 公共社会【1Q】インターンシップ実習 I, 公共社会【1Q】インターンシップ実習 II, ライフデザイン【2Q】社会と私(T2), ライフデザイン【2Q】社会と私(T3), 公共社会【2Q】仕事を考える, 公共社会【2Q】インターンシップ実習 I, 公共社会【3Q】みんなの”イバダイ学”, 公共社会【3Q】キャリアデザイン論, 公共社会【3Q】インターンシップ実習 I, 公共社会【4Q】仕事を考える, 公共社会【4Q】インターンシップ実習 I
学生支援・国際交流	[国際化・連携]水戸『留学生のための就職研究会』~WORK IN JAPAN!~(2019年11月~2020年2月)
支援・特記事項	就職ガイダンス「就職ガイダンス<就活準備編>」(2020年06月) 就職ガイダンス「インターンシップの参加を考える」(2020年06月)

<p>就職ガイダンス「インターンシップ&就職ガイダンス I」(2020年06月)</p> <p>合同企業説明会(事前ガイダンス)(2020年02月)</p> <p>国家・地方行政機関等業務説明会(2020年02月)</p> <p>就職ガイダンス「企業研究・求人票の見方」(2020年01月)</p> <p>就職ガイダンス「内定者による就活体験報告」(2019年12月)</p> <p>キャリアディスカバリーセミナー(2019年10月)</p> <p>キャリアカウンセラー会議(2019年09月)</p> <p>ガイダンス「インターンシップ特別事前研修」(2019年07月)</p> <p>インターンシップマッチングフェア(2019年06月)</p> <p>就職ガイダンス「インターンシップ・企業の探し方」(2019年05月)</p> <p>特別就活講座(iOP ラボ)(2019年02月)</p>
--

令和元年度における研究活動

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]「学生の就職活動と新卒紹介業の問題」, 茨城大学全学教育機構論集大学教育研究大3号(茨城大学全学教育機構), 第3, 47-56. (2020年03月)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

- 1[セミナー・ワークショップ:パネリスト,司会,運営参加・支援].「いばらきCOCプラス事業報告フォーラム」, 茨城COCプラス推進協議会(大学生,企業,行政機関)
- 2[セミナー・ワークショップ:司会,運営参加・支援].「水戸市男女平等参画センター運営委員会(委員長)」, (社会人・一般,企業,市民団体,行政機関)
- 3[セミナー・ワークショップ:講師].「教職員のための「キャリア相談員養成研修(青森)」講師」, 青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)(教育関係者)
- 6.「COC+教育プログラム開発委員会(インターンシップWGリーダー)」, (茨城大学社会連携センター)

○ 学外委員等

- 1.「水戸市市民協働部男女平等参画課」水戸市男女平等参画センター運営委員会(委員)

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会業務

1. 教務情報ポータルシステム専門委員会
2. 社会連携センター部門会議
3. COC 統括委員会委員
4. 茨城大学地元就職推進委員会
5. 点検評価委員会
6. 人事委員会

○ 機構の業務等

1. 令和1年度茨城大学オープンキャンパス
2. 茨城大学地元就職推進委員会委員
3. 教務情報ポータルシステム専門委員会委員
4. 社会連携センター地域連携部門委員
5. 全学教育機構学生支援部門会議
6. iOP ラボ「つまみぐインターンシップ」
7. 一般財団法人 日本国際協力センターと茨城大学との連携協定 連携協定
8. 茨城大学 COC 総括機構 COC 地域共生委員
9. 社会連携センター地域連携部門委員

学生支援部門	氏名 矢嶋 敬紘
--------	----------

職名	講師
学位	修士(教育学)[茨城大学]
学歴	早稲田大学 人間科学部[卒業] 茨城大学 教育学研究科 修士課程[修了]
職歴	
所属学会	日本心理臨床学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	社会福祉学 臨床心理学
教育研究概要	(キーワード) 障害者福祉、臨床心理学、学生相談、パーソナリティ、カウンセリング

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)健康の科学【1Q】心の健康科学, 人間とコミュニケーション【1Q】障害者理解と共生, 人間とコミュニケーション【2Q】障害者理解と共生, 人間とコミュニケーション【集中】障害者理解と共生, 公共社会【1Q】多様性社会に関わるボランティア活動, 公共社会【2Q】多様性社会に関わるボランティア活動, 公共社会【3Q】多様性社会に関わるボランティア活動, 公共社会【4Q】多様性社会に関わるボランティア活動
------	---

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [(MISC)研究論文共著]大森真,矢嶋敬紘,上田敦子,佐々木友美,館深雪「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み(1): パフォーマンス評価におけるルーブリックの開発・導入と学習者の意識への影響」,茨城大学全学教育機構論集大学教育研究, 3, 95-107. (2020年03月)</p>
--

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

<p>○ 学外委員等</p> <p>1. 茨城県公認心理師協会,理事,産業領域委員会委員長</p> <p>2. いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム,障害学生支援委員会副委員長</p> <p>○ 地域協力活動</p> <p>1. 教員免許状更新講習, 講師</p>

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会業務

1. 全学教育機構学生支援部門会議, 委員
2. 全学教育機構バリアフリー推進会議, 障害学生修学支援員
3. 全学教育機構学生生活支援部会, 学生相談員

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. ダイバーシティ推進室「メンタリングの基本的な心構え」講師

○ 機構の業務等

1. 障害等のある学生支援業務
2. 学生相談業務
3. バリアフリー推進室(水戸キャンパス、日立キャンパス、阿見キャンパス)運營業務
4. なんでも相談室(水戸キャンパス、日立キャンパス、阿見キャンパス)運營業務
5. ピアサポーター育成・運營業務

国際教育部門	氏名 安 龍洙
--------	---------

職名	教授
学位	博士(文学)[東北大学]
学歴	東北大学大学院 文学研究科 博士後期課程 言語科学専攻[2000年修了]
職歴	茨城大学留学生センター助教授(2003年4月～2008年3月) 茨城大学留学生センター教授(2008年4月～2017年3月) 茨城大学全学教育機構教授(2017年4月～)
所属学会	国立大学留学生指導研究協議会 アジア・ヨーロッパ未来学会 日本語教育学会 第二言語習得研究会 韓国日本近代学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本社会における異文化理解の変容に関する事例研究 日本社会における外国人(①ニューカマー②オールドカマー③その他)と日本人(①外国人との接触頻度の高い日本人②外国人との接触頻度の低い日本人③その他)の異文化理解のあり方及びその変容について PAC分析法を用いて認知的・情意的な観点から探っている。 (キーワード) 異文化理解、PAC分析法、外国人と日本人の相互理解、質的研究

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)学術日本語Ⅰ【前期】学術日本語Ⅰ(総合), 日本語教育概論【前期】, 思想・文学【1Q】日本語を考える(日本語の諸相), 日本語教授法演習【後期】, 思想・文学【4Q】日本語を考える(日本語の諸相), 多文化共生【通年】短期海外研修Ⅰ(韓国), 多文化共生【通年】短期海外研修Ⅱ(韓国) (日本語研修コース)レベル5総合【前期】, 日本事情【前期】, 日本体験授業【前期】, レベル5日本研究【後期】, 日本事情【後期】, 日本体験授業【後期】
------	---

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [その他・共著]共著「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」, 金沢大学国際機構. (2020年03月)</p> <p>2. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著]安龍洙「欧米出身留学生の日本のサブカルチャー観について」, グローバル教育研究, 3, 1-12. (2020年・発行月不明)</p>
--

3. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]青木香代子・安龍洙「日本人交換留学生の韓国に対するイメージとその変化」, グローバル教育研究, 3, 13-28. (2020年・発行月不明)
4. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]高柳有希・安龍洙「日本人韓国留学生は韓国のサブカルチャーを通して韓国をどう捉えているか」, グローバル教育研究, 3, 135-144. (2020年・発行月不明)
5. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]松田勇一・安龍洙「日本人交換留学生は海外への交換留学をどのようにとらえているか」, グローバル教育研究, 3, 81-98. (2020年・発行月不明)
6. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著]石鍋浩・安龍洙・高柳有希「韓国に長期滞在する日本人による韓国観の態度構造:PAC分析を用いた研究」, グローバル教育研究, 3, 53-65. (2020年・発行月不明)
7. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著【査読あり】]安龍洙「日本社会における韓国出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」, グローバル教育研究, 2, 1-12. (2019年・発行月不明)
8. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり】]高柳有希・安龍洙「日本人学生の韓国留学観に関する一考察」, グローバル教育研究, 2, 91-102. (2019年・発行月不明)
9. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり】]青木香代子・安龍洙「中国人短期留学生の日本留学観に関する一考察」, グローバル教育研究, 2, 13-28. (2019年・発行月不明)
10. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり】]松田勇一・安龍洙「中国出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」, グローバル教育研究, 2, 73-86. (2019年・発行月不明)
11. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり】]石鍋浩・安龍洙「東南アジア出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」, グローバル教育研究, 2, 59-72. (2019年・発行月不明)
12. [(MISC)研究発表要旨(全国大会, その他学術会議)共著【査読あり】]太田亨,安龍洙,菊池和徳,村岡貴子「韓国人文系大学生と日韓理工系学生の「論理的文章」に関する意識の比較分析」, 第21回専門日本語教育学会研究討議会誌, 17, 34-35. (2019年・発行月不明)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. [科学研究費助成事業]基盤研究(C)「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」(研究代表者)(2017年度～2020年度)
2. [科学研究費助成事業]基盤研究(B)「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」(研究分担者)(2016年度～2019年度)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学外委員等

1. 「アジア・ヨーロッパ未来学会」理事
2. 「国立大学留学生指導研究協議会」代表幹事

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 人事委員会

国際教育部門	氏名 八若 壽美子
--------	-----------

職名	教授
学位	修士(人文科学)[お茶の水女子大学]
学歴	お茶の水女子大学 人間文化研究科 比較文化学 博士後期課程[2003年単位取得満期退学] お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程日本語文化専攻修了(1997年)
職歴	茨城大学 全学教育機構 教授(2017年4月～) 茨城大学留学生センター教授(2006年4月～2017年3月) 茨城大学留学生センター助教授(2001年9月～2006年3月) 立命館アジア太平洋大学専任講師(2000年9月～2001年8月)
所属学会	日本語教育学会 ヨーロッパ日本語教師会 日本語文化学会
受賞歴	平成14年度茨城大学教育研究開発センター推奨授業表彰「総合科目社会国際系科目「日本事情Ⅰ」」(2003年03月)
学内兼務	
専門分野	日本語教育
教育研究概要	1.教育概要: 外国語(第二言語)としての日本語教育 2.研究概要: 日本語学習者に対する作文指導に関する研究 自律的言語学習に関する研究 (キーワード)外国語(第二言語)としての日本語教育、日本語学習者に対する作文指導、自律的言語学習、言語学習環境

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)学術日本語ⅡB【前期】学術日本語ⅡB(アカデミック・ライティング), 多文化社会と日本語教育【前期】, 5学部混合地域PBLⅣ【前期】, 思想・文学【1Q】日本語を考える(日本語の諸相), 思想・文学【4Q】日本語を考える(日本語の諸相) (専門科目)日本語教授法演習(海外)【前期】 (大学院科目)日本語表現法Ⅰ (日本語研修コース)レベル3総合【前期】, レベル4総合【前期】
------	---

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著【査読あり】]八若壽美子「再来日した元交換留学生のライフストーリー — 支援される側から支援する側へ—」, 茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究 (茨城大学全学教育機構), 3, 29-43. (2020年02月)</p>
--

③ 令和元年度における教員の活動

○ 競争的資金 共同・受託研究

→平成 29 年～令和 2 年度科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号 17K02839 研究代表者: 八若壽美子)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学外教育

1. [その他]「インドネシア教育大学日本語教育学科 1 年生向け会話授業」, 2 時間, 30 名出席, インドネシア教育大学

※2019 年 9 月～2020 年 2 月 サバティカル期間 於:トウラキットバンディット大学(タイ)、インドネシア教育大学、名古屋大学・日本法教育研究センター(ベトナム)

国際教育部門	氏名 池田 庸子
--------	----------

職名	教授
学位	修士[ペンシルバニア州立大学]
学歴	ペンシルバニア州立大学 比較文学科 比較文学 修士課程[1993年修了]
職歴	茨城大学留学生センター教授(2010年4月～) 茨城大学留学生センター助教授(2002年4月～2010年3月) 関西外国語大学助教授(1998年4月～2002年3月) 関西外国語大学専任講師(1993年9月～1998年3月) ペンシルバニア州立大学 TA(1991年9月～1993年8月) イースタンニューメキシコ大学 TA(1990年9月～1991年5月)
所属学会	全米日本語教育学会 日本語教育学会 日本語教育方法研究会 留学生教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本語教育、教材開発、文学教育、多読教育、留学生に対する質的研究 (キーワード)日本語教育、教材開発、多読

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)日本語教授法Ⅱ【前期】、学術日本語ⅡA【後期】学術日本語ⅡA(応用)、日本語教授法演習【後期】、思想・文学【3Q】日本語を考える(日本語文法)、多文化共生【通年】短期海外研修Ⅰ(スペイン)、多文化共生【通年】短期海外研修Ⅱ(スペイン) (日本語研修コース)レベル1 総合【前期】、レベル3 漢字【前期】、多読で学ぶ日本語【前期】、レベル1 総合【後期】、多読で学ぶ日本語【後期】
学生支援・国際交流 支援・特記事項	海外留学相談(2019年04月～2020年03月)

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [教科書・共著]坂野永理、池田庸子、大野裕、品川恭子、渡嘉敷恭子「初級日本語 げんきⅠ第3版」、ジャパンタイムズ出版。(2020年02月)</p> <p>2. [教科書・共著]坂野永理、池田庸子、大野裕、品川恭子、渡嘉敷恭子「初級日本語 げんきⅠワークブック第3版」、ジャパンタイムズ出版。(2020年02月)</p>

③ 令和元年度における教員の活動

3. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり・責任著者】]シャカル佳子・池田庸子・瀬尾匡輝「日米間のEメール交換とズームミーティングによる授業の活性化」, 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究(茨城大学全学教育機構), 3, 115-121. (2020年02月)
4. [研究論文(大学, 研究機関紀要)単著【査読あり】]池田庸子「日本語多読授業における学習者の自己評価」, 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究(茨城大学全学教育機構), 3, 45-52. (2020年02月)
5. [研究論文(国際会議プロシーディングス)共著【査読あり】]坂野永理、池田庸子、坂井美恵子「初級学習者用多読教材の開発」, 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム 報告・発表論文集(ヨーロッパ日本語教育学会), 24, 633-635. (2019年08月)

○ 学会発表等

1. [ポスター発表・共同] 坂野永理、池田庸子、坂井美恵子「初級学習者用多読教材の開発」[第23回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム・ヨーロッパ日本語教育学会・ベオグラード大学](2019年8月)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. [科学研究費助成事業]基盤研究(c) 19K00729「日本語読教育における多読教材の分析と学習者及び教師の意識変容に関する研究」(研究代表者)(2019年度～2021年度)
2. 「元留学生の留学評価と日本語学習に関する実証的研究」(研究分担者)(2017年度～2019年度)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学外教育

1. [その他]「全米日本語教師会(AATJ) ランチセミナー」

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 全学教育機構学生支援部門 学生支援協力員
2. ダイバーシティ推進委員会

○ 機構の業務等

1. 日本語教育プログラム部会長
2. ダイバーシティ推進委員会委員
3. 茨城大学留学生同窓会
4. 日本語研修コース継続生ガイダンス
5. 海外留学説明会
6. グローバル教育センター主任

国際教育部門		氏名 瀬尾 匡輝
職名	准教授	
学位	博士(言語学)[上智大学] 修士(第二言語研究)[ハワイ大学マノア校] 学士(宗教学)[ハワイ大学マノア校] 学士(第二言語としての英語教授法)[ハワイパシフィック大学] 副専攻(社会科学)[ハワイパシフィック大学]	
学歴	上智大学 外国語学研究科 言語学専攻 博士課程[2014年3月単位取得満期退学] ハワイ大学マノア校 第二言語研究学科 修士課程[2008年12月修了] ハワイ大学マノア校 人文学部 宗教学科[2006年8月卒業] ハワイパシフィック大学 国際学部[2005年5月卒業]	
職歴	茨城大学 全学教育機構国際教育部門 准教授(2019年4月～) 茨城大学 全学教育機構国際教育部門 講師(2017年4月～2019年3月) 茨城大学 留学生センター 講師(2015年4月～2017年3月) 香港理工大学 人文学院中文及雙語学系 専任講師(2012年1月～2015年3月) 香港大学專業進修学院 助理講師(2009年9月～2011年12月) 香港大学專業進修学院 非常勤講師(2009年1月～2009年8月) ハワイパシフィック大学 非常勤講師(2008年1月～2009年1月) コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ 森の池 教務主任(2007年～2008年) コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ 森の池 夏季日本語教師(2005年～2006年)	
所属学会	海外日本語教育学会 大学日本語教員養成課程研究協議会 日本教師教育学会 日本教育工学会 国立大学留学生指導研究協議会 開発教育協会 国際理解教育学会 異文化間教育学会 日本質 的心理学会 日本教育社会学会 言語文化教育研究学会 日本語教育方法研究会 カナダ日本語教 育振興会 アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会 全国語学教育学会 香港日本語教育研究会 日本語教育学会	
受賞歴	The Patricia A. Williams Prize in Education(2005年)	
学内兼務	農学部 附属国際フィールド農学センター 協力教員	
専門分野	日本語教育 外国語教育 教育社会学	
教育研究概要	言語教育(特に日本語教育)、教育社会学を専門としている。これまで海外を拠点に研究を行ってきた ため、海外における日本語教育のあり方についての批判的な検討を学習者と教師の視点から試みて きた。学習者の視点 学習者の動機や動機減退要因を調査していくなかで、余暇活動と消費としての 日本語学習の存在を明らかにした。その上で、学習者の視点に立った実践研究を行っている。教師 の視点 海外で働く教師達にインタビューを行った結果から、教師達の対立や孤立感を浮き彫りにし	

③ 令和元年度における教員の活動

	た。そして、海外で働く教師のためのオンラインコミュニティを立ち上げ、企画・運営した結果を実践研究という形で報告している。
	(キーワード)外国語/第二言語としての日本語教育(JSL/JFL)、批判的応用言語学、第二言語習得研究のJSL/JFLへの応用(e.g. タスク中心教授法、内容中心教授法)、グローバリゼーションと言語教育、実践研究、質的研究、批判的教育

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)5 学部混合地域 PBL IV【前期】, 人間とコミュニケーション Japanese Pop Culture A【1Q】, 人間とコミュニケーション Japanese Pop Culture B【2Q】, 日本語教授法 I【後期】, 公共社会みんなの”イバダイ学”【3Q】, Studies in Particular Fields【3Q】, Studies in Contemporary Japan【4Q】, 多文化共生 短期海外研修 I(ブルネイ)【通年】, 多文化共生 短期海外研修 II(ブルネイ)【通年】(日本語研修コース)レベル4(総合)【前期】, レベル4(総合)【後期】, (阿見キャンパス日本語補習授業)日本語入門【前期】, 日本語初級 I【前期】, 日本語初級 II【前期】, 日本語中級【前期】, 短期集中サバイバル日本語【後期】, 日本語入門【後期】, 日本語初級 I【後期】, 日本語初級 II【後期】日本語中級【後期】
学生支援・国際交流支援・特記事項	[国際交流支援]ベトナムの日本語教育を知るインターンシップ引率(2019年12月) [国際交流支援]ウィスコンシン州立大学の学生とのオンライン授業交流(連携協定あり)(2019年11月~12月) [国際交流支援]ハイフォン大学の学生とのオンライン授業交流(連携協定なし)(2019年10月~11月) [国際交流支援]ブルネイ短期海外研修への学生派遣(連携協定あり)(2019年8月~9月) [その他特記]日本学生支援機構 平成31年度海外留学支援制度(協定派遣)学生交流創成タイプ(タイプB)「東南アジアの大学生との相互理解を目指した海外派遣プログラム」(2019年8月~2019年9月) [その他特記]茨城大学 令和元年度教育改革推進経費「タンデム学習による海外の協定校の学生との交流事業」(2019年8月~2020年2月) [その他特記]九州大学 博士論文調査委員(2020年3月~7月)

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [調査報告書・編者]瀬尾匡輝「ブルネイってどんなところ?—ブルネイ・ダルサラーム大学短期研修報告(編者)」, 茨城大学グローバル教育センター. (2020年3月)</p> <p>2. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.12 「人をつなぐ、地域を本業にする、自分のスタイルを作る」土井佳彦さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版). (2020年3月)</p> <p>3. [研究論文(大学, 研究機関紀要)共著【査読あり・責任著者】]シャカル佳子・池田庸子・瀬尾匡輝「日米間のEメール交換とズームミーティングによる授業の活性化」, 茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究, 3, 115-122.</p>
--

(2020年2月)

4. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.11 「教室の外で関わる、人と出会う、居場所を作る」加藤駿さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2020年2月)
5. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.10 「声を集める、仕組みを整える、専門性を伝える」増田麻美子さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2020年1月)
6. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.9 「挑戦し、学びつづけ、広げる、極める」石川いづみさん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年12月)
7. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.8 自分で考える、伏線を張る、日本語教師で一本の道を通す 小西達也さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年10月)
8. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.7 「分野を・地域を・人を。つながり、つなげる」杉村佳彦さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年09月)
9. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.6 「自分の可能性をひろげ、自分にしかできないことを見つける、そして楽しむ」李暁燕さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年7月)
10. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.5 『『人生どかないしょ』から、『これで食っていく』へ』松島調さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年6月)
11. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.4 「学習者のニーズに寄り添う、日本語教育の常識にとらわれない」小山暁子さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年5月)
12. [(MISC)その他記事共著【依頼/招待・筆頭著者】]瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師の履歴書 vol.3 「マジョリティに働きかける、立場を超えて対話する」有田佳代子さん」, 日本語教育いどばた(アスク出版)。(2019年4月)

○ 学会発表等

1. [シンポジウム・ワークショップ パネル(公募)・単独] 瀬尾匡輝「言語教育サービスの商品化を考える」[言語文化教育研究 国際研究集会](2019年12月8日)
2. [口頭発表(一般)・単独] 瀬尾匡輝「言語教育サービスの商品化に対する教師の意識—香港とベトナムの教師の比較から」[日本語教育学会 2019年度秋季大会・日本語教育学会秋季大会](2019年11月24日)
3. [ポスター発表・単独] Masaki Seo "Intercultural Co-Learning: Solving a Problem"[JALT Study Abroad SIG Online Conference 2020](2019年11月2日)
4. [口頭発表(一般)・単独] 瀬尾匡輝「言語教育サービスの商品化—教育産業以外の企業が設置した日本語教室で働く教師の経験から」[日本教育社会学会第71回大会](2019年9月13日)
5. [口頭発表(一般)・共同] 瀬尾匡輝・本間咲耶「遠隔による日本語教育実習—日本とブルネイ・ダルサラーム国間の実践から」[CASTEL/J(日本語教育支援システム研究会)2019](2019年8月11日)
6. [口頭発表(一般)・単独] "We do not pander to our customers": Commodification of Japanese language educational service in Vietnam"[The 4th Forum on Sociology of Education at Beijing Normal University](2019年6月28日)
7. [口頭発表(一般)・単独] 瀬尾匡輝「事前・事後学習としてのレポート執筆—ブルネイでの海外短期研修の実践から」[異文化間教育学会第40回大会](2019年6月8日)
8. [口頭発表(一般)・単独] 瀬尾匡輝「ベトナムにおける日本語教育の商品化—学校経営者及びプログラム主任への

インタビュー調査から」[日本語教育学会 2019 年度春季大会](2019 年 5 月 26 日)

9. [口頭発表(一般)・単独] Masaki Seo "Publishing Students' Report as an E-Book"[JALT PanSIG 2019 Conference](2019 年 5 月 18 日)

10. [口頭発表(一般)・単独] Masaki Seo "Commodification of Language Education in Hong Kong: How private language schools sell connection with others as a commodity"[Taiwan Association for Sociology of Education (TASE) 25th Annual Conference 2019](2019 年 5 月 4 日)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. [科学研究費助成事業]若手研究(B)「言語学習の「商品化」と「消費」の包括的な理解を目指した調査研究」(研究代表者)日本学術振興会日本学術振興会日本学術振興会(2017 年度～2019 年度)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

1. 「阿見町国際交流協会 ホームステイ委員会委員」

○ 学外委員等

1. 「日本語教育学会」国際連携委員会委員
2. 「全国語学教育学会 分野別研究部会 海外留学」企画委員長
3. 「全国語学教育学会 分野別研究部会 海外留学」広報委員長
4. 「言語文化教育研究学会」研究集会実行委員長
5. 「言語文化教育研究学会」理事

○ 学外教育

1. [その他]「茨城大学 iOP ラボ「香港は、いま。—現地の最新レポートと対話のワークショップ」」, 2 時間, 10 名出席,
2. [公開講座]「外国人に日本語を教えてみよう!」, 12 時間, 20 名出席, 茨城大学公開講座
3. [出前授業]「世界と日本を考える」, 2 時間, 30 名出席, 茨城県立水海道第一高等学校
4. [その他]「2019 年度 茨城大学教員免許状更新講習 「外国にルーツを持つ児童・生徒に対する日本語教育・学習支援」 於筑西」, 6 時間, 25 名出席, 茨城大学
5. [公開講座]「ちがいをたのしむ—多文化共生へのはじめの一歩」, 5 時間, 20 名出席, 2019 年度茨城大学公開講座 (高校生徒向け)
6. [出前授業]「外国語として日本語を教えてみよう!」, 2 時間, 40 名出席, 福島県立磐城桜が丘高等学校
7. [出前授業]「外国語として日本語を教えてみよう!」, 2 時間, 40 名出席, 茨城県立勝田高等学校
8. [公開講座]「茨城大学で学ぶ留学生と考える「日本」」, 2 時間, , 茨城大学公開講座
9. [その他]「2019 年度 茨城大学教員免許状更新講習 「外国にルーツを持つ児童・生徒に対する日本語教育・学習支援」 於水戸」, 6 時間, 25 名出席, 茨城大学

令和元年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会業務

1. 日本語教育プログラム部会

2.. グローバル英語教育プログラム部会

○ 機構の業務等

→阿見・日立日本語補習授業 コーディネーター, 阿見キャンパス留学交流室チューターの支援, グローバル教育センターホームページ及び Facebook ページの管理, 阿見町国際交流協会との連携事業の促進, 阿見キャンパスの留学生家族の生活支援

③ 令和元年度における教員の活動

国際教育部門	氏名 青木 香代子
--------	-----------

職名	講師
学位	教育学博士[サンフランシスコ大学大学院]
学歴	サンフランシスコ大学大学院 教育学部 国際・多文化教育 博士課程[2008年5月修了]
職歴	中央大学 文学部事務室 嘱託職員(2013年2月～2017年3月) 国際教養大学(2012年6月～2012年7月) 桑港学園日本語学校(2008年9月～2012年3月)
所属学会	日本教育社会学会 日本国際理解教育学会 日本移民学会 日本オーラル・ヒストリー学会 Comparative and International Education Society 異文化間教育学会
受賞歴	なし
学内兼務	
専門分野	教育学
教育研究概要	多文化教育、異文化間教育学、批判的教育学、社会正義のための教育などを中心に、近年は日本人性や人種差別をはじめとする抑圧と特権性に焦点を当てた社会正義のための教育実践開発を研究しています。
	(キーワード)多文化教育 異文化間教育 国際理解教育 批判的教育学

令和元年度における教育活動

担当科目	(教養科目)多文化社会と日本語教育【前期】、5学部混合地域 PBL IV【前期】、学術日本語 I【後期】学術日本語 I (応用)、日本語教授法演習【後期】、グローバル・スタディーズ【3Q】 Diversity and Social Issues in Japan A、多文化共生【3Q】多文化共生、グローバル・スタディーズ【4Q】Diversity and Social Issues in Japan B、多文化共生【4Q】多文化共生、多文化共生【通年】短期海外研修 I (サンフランシスコボランティア)、多文化共生【通年】短期海外研修 II (サンフランシスコボランティア) (日本語研修コース)レベル 1 総合【前期】、レベル 3 総合【前期】、日本事情【前期】、レベル 1 総合【後期】
------	--

令和元年度における研究活動

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. [単行本(学術書)・共編者]「社会科における多文化教育—多様性・社会正義・公正を学ぶ(第1章「多文化教育再考—社会正義の実現に向けて—」、コラム2・4、あとがき)」、明石書店、14-31, 58, 128, 286-287。(2019年06月)</p> <p>2. [研究論文(学術雑誌)共著【査読あり・筆頭著者】]「日本人交換留学生の韓国に対するイメージとその変化」、茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究、3, 13-28。(2020年02月)</p>
--

3. [研究論文(学術雑誌)単著【査読あり】]「人種」「人種差別」を学び直す—大学における社会正義のための教育実践にむけて—, 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究, 3, 145-159. (2020年02月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・単独]「移動する日台ダブルのアイデンティティとことば—大学生の日台ダブルのライフストーリーから—」[日本移民学会 第29回年次大会・日本移民学会・天理大学袖之内キャンパス](2019年6月)

2. [口頭発表(一般)・単独]「大学における社会的正義のための教育にむけた試み—特権性と抑圧の理解の授業実践を通して—」[異文化間教育学会 第40回大会・異文化間教育学会・明治大学](2019年6月)

○ 競争的資金 共同・受託研究

1. 基盤研究(C)(一般)課題番号19K02470「社会正義のための多文化教育のプログラム開発と実践」(研究代表者)(2019年度～2020年度)

2. 基盤研究(C)「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」(研究分担者)(2017年度～2020年度)

令和元年度における社会的活動、地域貢献など

○ 社会貢献活動

1. 「南丹市国際交流協会」

○ 学外委員等

1. 「異文化間教育学会」若手交流委員会

○ 学外教育

1. [公開講座]「ちがいをたのしむ—多文化共生へのはじめの一步」, 2019年度茨城大学公開講座(高校生徒向け)

令和元年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会業務

1. 予算・施設委員会

2. 点検評価委員会

④ 機構内各種委員会委員

H31. 4. 1

委員会	予算・施設委員会	学術委員会	点検評価委員会	人事委員会
委員長	篠嶋副機構長	西川副機構長	下村副機構長	小林評議員
総合教育企画部門	下村勝孝	嶋田敏行 菊池 武 山崎 大 塚田 純	嶋田敏行	金 光男 (任期 1年～R2. 3. 31) 小磯重隆 安 龍洙
共通教育部門	館 深雪 佐藤伸也		小西康文 小林邦彦	
学生支援部門	西川陽子		小磯重隆	
国際教育部門	青木香代子		青木香代子	
備 考	評議員又は副機構長 (=委員長) 各部門から推薦された 専任教員又は兼務教員 5人(共通から2人)	評議員又は副機構長 (=委員長) 機構長から指名された 専任教員 4人	評議員又は副機構長 (=委員長) 各部門から推薦された 専任教員又は兼務教員 5人(共通から2人)	

(任期2年以内 : H31. 4. 1～R3. 3. 31)

⑤ 別紙資料リスト

<総合教育企画部門>

資料 2-A-01_コミットメントがみえる

資料 2-A-02_大学教育再生加速プログラム（AP）事後評価調書（抜粋）

<学生支援部門>

資料 2-C-01-1_就職ガイダンス実施日程

資料 2-C-01-2_就活テーマ勉強会

資料 2-C-02_合同企業説明会

資料 2-C-03_国家・地方行政団体等業務説明会

資料 2-C-04_インターンシップマッチングフェア [学内]

資料 2-C-05_インターンシップマッチングフェア [COC+]

資料 2-C-06_バスツアー

資料 2-C-07 業界研究会

資料 2-C-08_iOP インターンシップ [JICE]

資料 2-C-09_留学生のための就職研究会 [JICE]

資料 2-G-01_2019 年度前学期 学長と学生の懇談会（実施報告）

資料 2-G-02_2019 年度後学期 学長と学生の懇談会（実施報告）

資料 2-G-03_2019 年度学長と農学部学生の懇談会（実施報告）

資料 2-G-04_ゲートキーパー養成講座チラシ

資料 2-G-05_ゲートキーパー養成講座アンケート集計結果

資料 2-G-06_担当マニュアル作成報告（教育研究評議会資料）

令和2年12月
全学教育機構 点検評価委員会